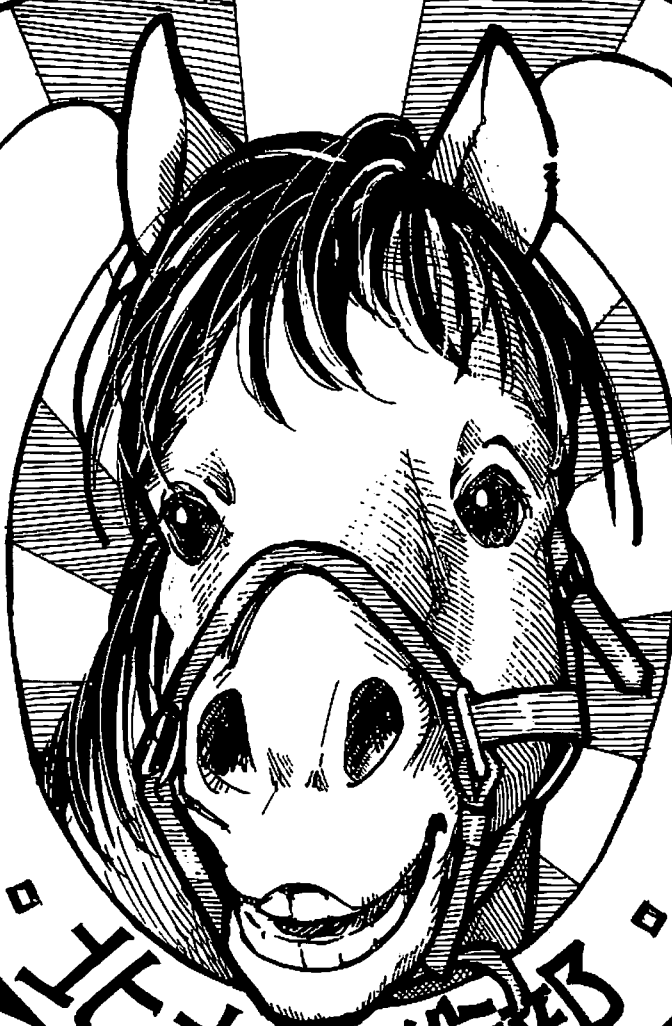


部報

北



北大馬術部

No.40
平成6年度



玉

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80

はるきたれば だいちひかーる、

しろがねのえんざん ゆめほうぼうたり、

たからかにいまぞいなけ、われ

らしゅんめのほまれあり。

あるかぎり。ほくだいほくだい、お

わがほこう、われらしゅんめのほまれあり。

馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君 作歌

一

春来たれば 大地光る
銀の遠山 夢茫々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

二

時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

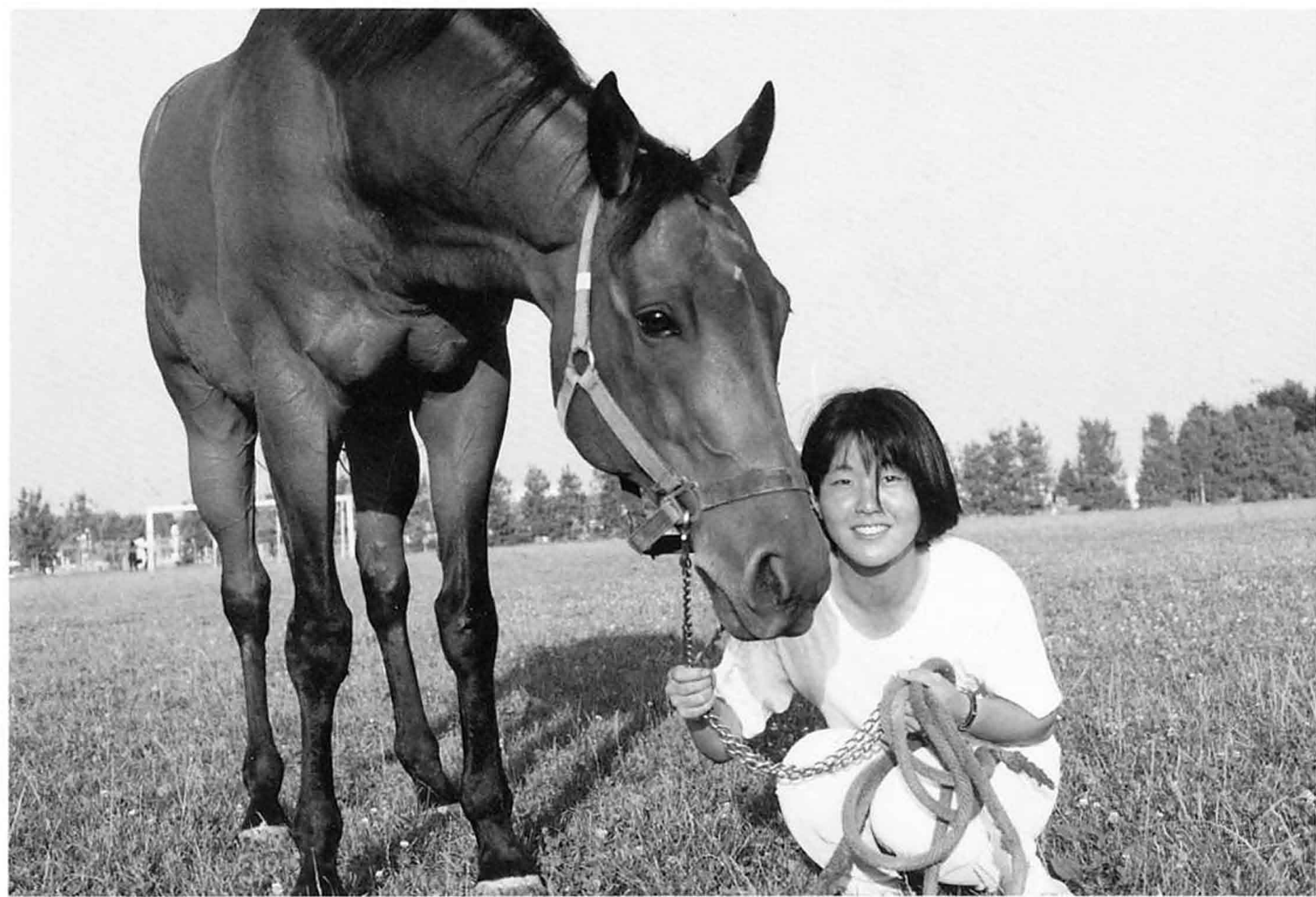
三

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のはまれあるかぎり

北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のはまれあり



黒崎兄と北銀号



深部姉と北駿号



西村兄と北凌号



松原兄と明日檜号

目 次

巻頭言〔学ぶ力量〕	市川 瑞彦	1
監督より	岡田 光夫	3
前主将より	松原 貴史	4
北皇子号功労馬表彰	岡田 光夫	5
現在のクラブ状況		8
戦績報告		13
調教報告		25
卒部にあたって		58
自己・他己紹介		60
OB名簿		71
現役部員名簿		83

学ぶ力量

部長 市川 瑞彦

1994年4月より斎藤善一前部長の御退官に伴いまして、後任の部長となりました。お話がありましたとき、私自身OBで、馬術部には恩義がある関係上、お断わりするわけにはいきませんでした。正直のところ、大変私には荷が重い仕事ですが、紙上を借りましてごあいさつがたがた、OB諸兄弟はじめ乗馬連盟、各団体の皆様によりしくご支援をお願い申し上げる次第です。

学内にはおりましたが、実質的には30余年ぶりですので、昨年一年間は私の古い知識や考え方がまったくいまでは役に立たないのかどうか、できるだけ機会をみつけて現在の状況を見学し、「見習い」をさせていただきました。その結果、ルールが変わったり、術語がフランス語から英語に変わったり、乗馬クラブ・外国産馬の普及、学生馬術の相対的地盤沈下、競争馬あがりの馬が手にはいりやすくなったことなど、たしかに大きな変化ともいえましょうが、基本的なところはそう変わっていないのではという印象をもちました。また、現役部員諸君の活動を見ていて本当によくやっているな、むしろ我々の現役の時代より大変ではないかと思います。部長としては、いわゆる北大体育会学生団体顧問教官としての任務の他に、私自身OBである以上、現役部員の切なる願いである「戦績の向上」という観点からも、努力をしなければならないと思っています。以下そのような観点から若干の「見習い」期間でえた感想を述べたいと思います。

馬術というのは、「会話」が難しいスポーツのような気がします。それは、馬術が人と馬の組み合わせにより成り立つスポーツである故に、他のスポーツに比べ内容の伝達にあいまいさを生じやすいように思います。どんなプロの達人でも一生にかかわる馬には限りがありましょうし、(～10²) (普通我々が接する人の場合はその一桁少ないでしょう)、しかも意識、無意識にかかわらず、人は自分の身体的な特徴を基礎にして「会話」をします。したがって、経験した馬と、話し手と受け手の性格的・身体的特徴の組み合わせにより、その経験の表現(乗り方・調教のしかたの経験的表現)にはかなりのバラエティーが生ずる結果となるように思います。これは異なる言語を話す人々の間のコミュニケーションの問題に似て、実は大変困難なことのように思います。

したがって、学には相応の基礎的な力量が要求されると思うのです。それは何かといえば、科学的に考える態度ということでしょう。相手の経験的表現から「共通言語」に翻訳し、自分の血肉となる本質的部分を抽出する力量でしょう。そのまま表層的に受け取ると、あっちへ追随し、こんどはこっちへ追随し、あげくに自信を喪失することになりかねません。私の経験したかぎり、どうもこの学ぶ姿勢に関しては、現在の評価は芳しくありません。私の見解では、我が北大馬術部には馬術家をもって鳴る先輩が多くおられるわけだから、こうした学ぶ力量があればこの資産をおおいに活用し上達することができるはずである。具体的には、

1) 馬術を経験とともに、スポーツ科学として常にとらえること、2) 自分にどういう克服すべき課題があるかという、課題意識をもつこと、3) 部員同士またはOBとの間で討論によりお互いに高めあう習慣を確立すること、4) 日頃の練習体系もそれを保証するものであること、などが求められている、と思うのである。

岡田監督から

此の度、永い間監督という名前で馬術部の皆さんに御迷惑をお掛けしてきましたが、ようやく市川部長さんのお許しを頂いて退任させて頂くことになりました。今後は顧問という形で部の発展を見守っていきたいと思います。思えば戦後間もなく、昭和23年に転勤の無い札幌市を希望した時、故松本人喜先生から「馬術部の面倒を見てくれないか」と云うお話があり、なんとか馬に乗りたいたいと思っていた矢先、渡に舟とばかりにお引き受けして、当時競馬場の馬を借りて乗っていた馬術部の練習を見る様になり、馬術部と接することになりました。

先日、39年卒の小島君から伺った話によると、私はすっかり忘れていましたが小島君達が学生王座決定戦に出場した時、監督がいないのは北大だけだということで、それなら岡田に頼んだらいいということになって私の家に小島君外2、3人の方がいらしたのが私が監督と呼ばれる始まりだったとのことでした。それから今日まで半世紀近く監督と呼ばれていたのですから、月日の立つのも本当に早いものです。私が監督に就任した経緯を人に聞いてあっそうだったのかと思うほど昔話になった訳ですが、断片的ではありますが部の歴史はいつまでも忘れずにおります。

当時は馬場もポプラナ並木の所に在り自宅から自転車で通うことは相当の努力を要した筈ですが、大した苦勞をしたと云う記憶がないことを考えますと案外馬に乗れるという楽しみの毎日だったのではと思われます。年と共に体力も気力も衰え、此の数年は朝練にも、経路回りの連絡が入れば出掛けると云った具合でした。昔は随分積極的に部員諸君の練習を見に行き、「どれ、貸してみろ。」と言って馬に乗り得意になっていたことを思い出しますが、年をとると共に馬場から遠ざかり、なんとも申し訳なく思っています。

今後とも部を思う気持ちに変わりはありませんので、私でよければ今迄の経験の中から知恵をかしていきたいと思います。

前主将より

松原 貴史

一年間、全日本への団体出場を目指してやってきたが、達成できなかった。人馬共に、酪農、畜大に劣っているのが現状だ。自分なりに改善点を以下に述べる。

北大の過去の成績から判断すると、一頭の馬が何年も連続して権利を取ることができない。つまり、乗り代わりがスムーズに行なわれず、前のチーフから新しいチーフへの引き継ぎが不十分であることに大きな原因がある。たいして馬術の知識もない新しくチーフになる人間が、今までと違う調教を行うことで馬を壊し、結果飛ばない馬になってしまう。その繰り返しが起こっていると私は考える。部を離れる人間は自分の乗っていた馬と新しいチーフとが軌道に乗るまで見届けるべきである。その本当の意味での引き継ぎができれば必ずプラスになる。

次に、新馬調教の必要性である。毎年最低でも1・2頭は馬を入れ、調教すべきである。調教する者は、現役でも乗れる馬にすることを考え、決して難しい馬にしてはならない。障害について述べると、調教者はハミのコンタクト無しで自由に楽にコンビネーションを飛ばす馬にし、有望な1・2年生と共に、馬を調教していく。そうすることで下級生は随伴の練習ができ、多大な上達を得られる。そのような馬にするためには、馬が障害を飛ばす一回、一回に対して、褒美となる餌を与える。その繰り返しが気長に、また決して無理の無いレベルで行う。その忍耐力と正しくその時点での馬のレベルを判断することが重要である。

上に述べたように、引き継ぎと新馬調教がうまくいけば、多少でも良くなるだろう。私自身大学院に進むことで、最低でも2年間札幌に残ることになり、これからの馬術部が少しでも良い方向に向かうように見届けていきたいと思う。

北皇子号の功勞馬表彰

岡田監督

北皇子が惜しまれて離厩した。北皇子には何回かまたがっただけにすぎませんが、バランスの良い動きと身体のはかさは今でも騎坐に記憶されています。北皇子には本当に御苦勞様でした、又、代々調教に当たられた部員諸君にも心から御苦勞様と申し上げます。

北皇子は反抗することもなく、又落下することもなく、本当に安心して見ていられる馬でした。ドンホッパーも又この様な馬でしたが、この様な馬を名馬と言うことが出来るのでしよう。

此の度日本馬術連盟から功勞馬表彰を受けましたが、丁度、日本馬術連盟の理事会で上京していた私が部長さんに代わって頂いて参りました。表彰状に書かれた文章は次の通りであります。

北皇子

昭和54年北海道大学の所有馬となり、16年間に亘り全日本 東日本 全日本学生 北日本馬術大会に出場し、北日本大会では2回の優勝を果たしている。その間各種競技会に出場する傍ら初心者育成、馬術の発展向上に貢献している功績により表彰する。

北皇子主戦績

S 5 5	公認	婦人障害	折橋	2 位
5 6	道体	M 級 B	折橋	2 位
5 7	北日学	二走敗者復活	名越	満点
	道体	M 級 B	名越	3 位
5 8	半澤杯	M 級	名越	1 位
	全日学	二走	名越	減点 1 6
5 9	半澤杯	複合	町田	3 位
	公認	ハンティング B	町田	3 位
	北日学	二走	町田	4 位
	東日本	ハンティング	町田	満点
		選抜 M 級	町田	減点 3
	全日本	コンソレーション	町田	1 1 位
6 0	自馬体	S & H	町田	2 位
		M 級 B	町田	1 位
		選抜 M 級	町田	3 位
	公認	M 級 S & H	町田	2 位
		M 級	町田	3 位
	北日学	二走	町田	5 位
		総合	町田	6 位
	道体	成年障害	町田	3 位
	東日本	M 級 S & H	町田	4 位
	全日学	二走	町田	2 4 位
		総合	町田	9 位
6 1	半澤杯	M 級	陣川	3 位
	自馬体	M 級 B	陣川	3 位
	公認	選手権	陣川	2 位
	北日学	総合	陣川	4 位
	全日学	総合	陣川	3 0 位
6 2	自馬体	S & H	中野	1 位
		M 級 C	加藤	1 位
	公認	M 級	中野	3 位
		S & H	中野	2 位
	北日学	二走	中野	5 位
	全日学	二走	中野	3 3 位
6 3	自馬体	M 級 B	中野	3 位

	公認	選手権	中野	1 位
	北日学	二走	中野	2 位
		総合	中野	5 位
	全日学	二走	中野	
		総合	中野	1 5 位
H 2	北日学	二走	福庄	1 位
	全日学	二走	福庄	2 4 位
H 3	自馬体	L 級	高村	2 位
	北日学	二走	高村	1 位

主将より

鎗木 照夫

現在（平成7年3月）部員16名、馬11頭で北大馬術部を強くするよう頑張っています。北大の低迷の原因と、どうしたら強くなれるのかについては日頃から話合っていることであり、これからも更に考えていかななくてはならないことです。北大が弱い原因は人と馬とに一貫した教育がなされていないことにあります。北大には酪農のようにコーチはおらず、畜大のように一貫した馬造りのセオリーもありません。これからは他大学の調教の方法を積極的に取り入れ、またコーチ不在の分を各チーフの話合いによる一貫した下級生の教育を行うことにより補っていかなくてはなりません。また騎乗に対する貧欲さと、やらねばならないという強い意識を一人一人が持つことが必要です。

今年は馬の出し入れもうまくいき能力のある馬が残ったので、それぞれが個々の役割をしっかりと認識した上で一致団結して試合に臨めば絶対に全日で団体を組むことができると信じている。

副将より

米家 直子

近年、騎乗の方針や部活動としての方針など、伝統を生かして創っていく大きな問題が一年ごとに急激に変動したり、またそれらの伝統を継承できなかったりということが続きました。10年のスパンで通用する根本的な方針がなくなり、新しく創ろうとする試行錯誤的な試みも一年一年方向を変えていたという状態です。このことのデメリットは調教についてはもちろん、騎乗技術の向上についてもかなり大きく現われています。北日のレベルで北大として結果が出せないということが数年にわたって続き、それもまたこの悪循環の要因になっています。またそのために、北大としての誇りとか、勝利に対する撞景とかという部員のメンタル的な部分も（10年前に比べれば明らかに）マイナス方向へ変化しています。現在、私達がやるべきことはこの数年のことをきちんと踏まえ、そしてそれ以前のことも知った上で次の10年に通用するような方針を創ることです。それがまた1年限りのものになってしまうために、今の三年目、二年目が納得して受け継げる要素を持つもの、一部の部員がやっていけるものではなく部としてやっていけるものを考えなくてははいけません。チーム制に固執することを止め、（鎗木が言うように）代でまとまった意見を持ってそれを交換することのできる環境を作ることが必要です。また現役の騎乗技術の未熟さのために馬のレベルが低下しないように、OBの方の技術をお借りしてコンスタントに馬を見てもらえる環境を整え、それを続けていくことができるようにすることも大切だと思います。

以上のこととは次元が違ってもやはり私達に必要なことがあります。それは、いろいろなことを犠牲にしてもやっぱりこの部活で自分はやっていきたいことを個々人が見だし、部というものに対して活気のある接し方ができるようになるということです。どの部員もものすごく楽しんでやっている、そういうことです。代が変わってから離厩馬のことなど北大の体質を変えることをおもいきってやってきましたが、部員の気質も変えていかなくてはと考えています。特に今、私達には何も無いに等しいからこそまず楽しめる馬術部に部員みんながしていった欲しいと思います。

主務より

河合 由枝

9月から黒崎兄より引き継いで主務を担当しています。
部活のより良い運営を行うため日々努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

現役のみんなへ

①学生部との関係について

部員の中には「学生部はいろいろ面倒なものだ」とか思っている人も少なくはないだろう。しかし、学生部は決して課外活動を規制しているのではなく、応援してくれているところである。物品援助、厩舎施設の改善など、多くの支援を受けていることに対して自分たちは学生として学校にきちんとした義務を果たしているか、もう一度よく考えてほしい。

②外部（他団体、アルバイト先、OBの方々）との関係について

「自分たちは学生だから」といってそのことに甘えていないか。たとえ、外部の人が「学生だから仕方がない」と思っていたとしても、いいかげんな対応や無責任な行動によって信頼関係はあっという間に崩れます。上級生・下級生にかかわらず、北大馬術部の一員として責任のある行動・態度をとってほしい。

③競技会の運営について

競技会の主管を行うにあたり、中心となるのはもちろん主務であるが、部員全体が主管であるという自覚と責任をもって、運営にあたってほしい。

④役職の仕事について

現在、部員数が少なく、役職の仕事も大変であると思う。しかし、忙しいのを言い訳に仕事を後回しにしたり、手を抜いたりしていないだろうか。部活の円滑な運営のために、自分が今何をすべきか、何が出来るか、もう一度自分でよく考えて、積極的に仕事をしてほしいと思う。

馬匹より

谷地 織

現在（平成7年3月）の馬匹は牝馬2頭、セン馬9頭の計11頭です。

昨年の夏前に厩舎裏のパドックの改裝が終わりました。火山灰を入れたため、秋から冬にかけて雨や雪の解ける季節にも地面がぬかることなく、馬たちを気持よく放牧させてやることができました。改裝にあたって、長岡さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

集団放牧について前号の部報に少し書きましたが、馬添いがひどく悪いものと新馬以外は2頭から4、5頭と現在馬場と三角地に一緒に放しています。多少のケガはありますが、狭い冬馬房にいるよりはメンタル面でかなりプラスになっていると思います。

最近、数年前までに比べて部室や厩舎まわり、馬の環境と共に人間の環境もかなり清潔になってきました。まだまだ一般に言う“キレイ”からはほど遠い気がしますが、部員の意識が向いてきているのは嬉しいことです。馬たちのケガや感冒、腹痛などには最近大きなものはありませんが、人が少ないのですから更に気を引き締めて絶対に事故の無いように心がけていくつもりです。また、野中さん、獣医学部の先生方にはお忙しいなか度々お世話になっています。

部員が極端に少ないことで、良い面も悪い面もあると思いますが、シーズンに向かって、騎乗している時間以外での馬たちとのふれ合い（調教）も大切にしていきたいとお持ちしています。

現在の馬匹（1995、3 人厩順）

北銀	セン	16才	北旋風	セン	6才
北玲	牝	15才	フライト	牝	8才
北駿	セン	14才	北帝	セン	7才
明日絵	セン	19才	北祥	セン	8才
ファスト・バロン	セン	10才	北獅	セン	10才
北凌	セン	9才			

入厩・離厩報告

平成6年度の入厩馬、離厩馬は以下のとおりです。

入厩	・北帝号	サラ・セン・鹿毛・6才
	・北祥号	サラ・セン・鹿毛・7才
	・北御号	中半・セン・栗毛・9才

離厩	・北瑛号	R・Cメインフィールドズ
	・グレンエトワール号	ヤマワ牧場
	・北遥号	モモセR・C
	・北鷲号	モモセR・C

*「北旋風号」の調教報告は部報発行の都合により次号に掲載します。

成績報告

◆対東北大学定期戦（於北海道大学 4月3日）

使用馬匹 北銀・北駿・エトワール

出場選手 中村・沼田・宮坂

優勝 北大 準優勝 東北大

◆国立七大学定期戦（於東北大学 4月10日）

出場選手 深部・松原・鎭木

1位 東北大 2位 名大 3位 京大

4位 東大 5位 北大 6位 九大

◆大22回半澤杯記念馬術大会（於北海道大学 5月3、4日）

《複合馬術競技》

1位	道谷	騾	天	鳳	畠農大
2位	深部	北		駿	北大
3位	加藤	騾		狼	畠農大
7位	黒崎	北		銀	北大
10位	米家	北		玲	北大
失権	松原	北		銀	北大
OP	河合	北		瑛	北大（馬場）
OP	谷地	ファストバロン			北大（障害）

《馬場馬術第3課目 A班》

馬場馬術第3課目 A班》							得点率	%	
1位	岡崎	エ	リ	ジ	ア	ン	JRA札幌	58.48	
2位	星野	レ		オ		ン	フロンティア	53.12	
3位	星野	ヒ	カ	リ	ラ	イ	デン	フロンティア	51.88
6位	深部	北				駿	北大	51.52	
9位	谷地	北				凌	北大	48.99	
12位	杉野	北				遥	北大	46.81	
14位	松原	グ	レ	ン	エ	ト	ワール	北大	46.38
15位	河合	北				瑛	北大	44.28	
19位	西村	北				凌	北大	40.65	
22位	米家	北				玲	北大	37.68	

《馬場馬術第3課目 B班》

1位	岡崎	キ ヨ ウ ワ ノ ー ザ ン	JRA札幌	55.72
2位	瀬川	カ ツ ト ッ プ イ エ ロ ー	メインフィールド	53.91

3位	開発	オ	ス	カ	ー	フロンティア	52.90
8位	黒崎	北			銀	北大	45.00
15位	北村	北			瑛	北大	41.81
	村田	北			瑛	北大	41.81
	松原	明	日		檜	北大	41.81
21位	宮坂	北			遥	北大	39.13
23位	保坂	北			遥	北大	35.80

《中障害飛越競技》

					減点	J.O
1位	大森	チャレンジャーNo1		オーフル	0	0
2位	松田	驃	鷹	酪農大	0	0
3位	沖山	ブラックランパー		酪農大	0	0
4位	深部	北		駿	北大	0
5位	松原	明	日	檜	北大	0

《小障害飛越競技》

1位	鶴見	明	日	檜	北大	0	0
2位	成毛	驃		狼	酪農大	0	0
3位	長屋	マイフェアレディ		モモセ		0	0
9位	鎗木	フ	ラ	イト	北大	0	4
10位	米家	北		玲	北大	0	4
	黒崎	北		銀	北大	4	

《新人新馬障害飛越競技》

1 位	清水	驃	狼	酪農大	0	0	
2 位	中田	北	銀	北大	0	0	
3 位	鈴木	ポ	ン	ターノ	オーフル	0	0
	中村	北	銀	北大	3.5		
	西村	北	凌	北大	4		

◆北日本学生馬術選手権大会（於酪農学園大学 5月28日）

出場選手 松原・鎗木・深部・谷地

選手権	1位	松田	酪農大
	2位	幌村	酪農大
	3位	松原	北大
女子選手権	1位	山田	酪農大
	2位	沖山	酪農大

3 位 谷地 北大

◆三大学定期戦（於北海道大学 5月15日）

出場選手 宮坂・中田・村田

使用馬匹 北駿・フライト・グレンエトワール

優勝 帯広畜産大学 準優勝 酪農学園大学 3 位 北海道大学

◆第29回北海道自馬馬術大会

《特定L級障害飛越競技（婦人の部）》					減点	J.O.
1 位	米家	北	玲	北大	0	0
2 位	石井	ラストチャンス		早田	0	0
3 位	細川	カリスタヒーロー		北星	0	0
9 位	谷地	ファストバロン		北大	-4	

《馬場馬術第2課目》					得点率	%
1 位	細野	カソットグイエロー	メインフィード		51.7	
2 位	杉水流	弁 天 雄	N.H.P.		51.0	
3 位	輪島	弁 天 雄	N.H.P.		50.5	
12位	河合	北 瑛	北大		45.7	
13位	西村	北 凌	北大		45.1	
16位	杉野	北 遥	北大		44.5	
17位	米家	北 玲	北大		43.5	
22位	笠原	北 遥	北大		40.3	

《馬場馬術第3課目 A班》						
1 位	瀬川	カソットグイエロー	メインフィード		57.1	
2 位	星野	レ オ ン	フロンティア		55.4	
3 位	利根川	グ ラ ニ ッ ド	N.H.P.		51.4	
13位	黒崎	北 銀	北大		48.9	
14位	杉野	北 遥	北大		46.7	
18位	鶴見	北 遥	北大		45.3	
同	谷地	ファストバロン	北大		45.3	
23位	西村	北 凌	北大		43.3	
24位	丸山	北 瑛	北大		43.0	

《馬場馬術第3課目 B班》

馬場馬術第3課目 B班》						得点率	%
1位	開発	オ	ス	カ	ー	フロンティア	57.9
2位	村上	ミス・ジェニファー				札幌RC	55.9
3位	原	アンナクイーン				十勝柏友会	54.2
17位	河合	北			瑛	北大	48.2
19位	鎗木	フ	ラ	イ	ト	北大	47.7
20位	米家	北			玲	北大	47.2
22位	松原	明		日	槍	北大	44.1

《一般L級障害飛越競技》

一般L級障害飛越競技》							減点	J.O.	
1位	天羽	ジ	ャ	ス	パ	ー	日高KF	0	0
2位	輪島	M	r	.	Z		N.H.P.	0	0
3位	久保田	ア	ブ	サ	ン		十勝柏友会	0	4
5位	八木	ボ	レ	ア	ス		モモセ	0	4
8位	長屋	北			駿		北大	0	R
18位	黒崎	北			銀		北大	4	
21位	松原	グ	レ	ン	エ	ト	ワール	北大	8
オープン	深部	北			駿		北大	0	

《特定L級障害飛越競技》

1位	鎗木	フ	ラ	イ	ト	北大	0	0
2位	中村	マ	ッ	ク		N.H.P.	0	0
3位	工藤	コ	ジ	ロ	ウ	十勝柏友会	0	0

《M級C障害飛越競技》

1位	加藤	騾		狼		酪農大	0	0
2位	吉田	グ	ラ	ニ	ット	N.H.P.	0	3
3位	天羽	ア	カ	デ	ミー	日高KF	0	4
11位	松原	明		日	槍	北大	8	

《馬場馬術第4課目》

馬場馬術第4課目》						得点率	%
1位	開発	オ	ス	カ	ー	フロンティア	54.0
2位	鍋谷	ア	ブ	サ	ロム	旭川RC	48.5
3位	高橋	ア	ド	ニ	ス	モモセ	47.5
4位	河合	北			瑛	北大	40.2

《L級S & H競技》

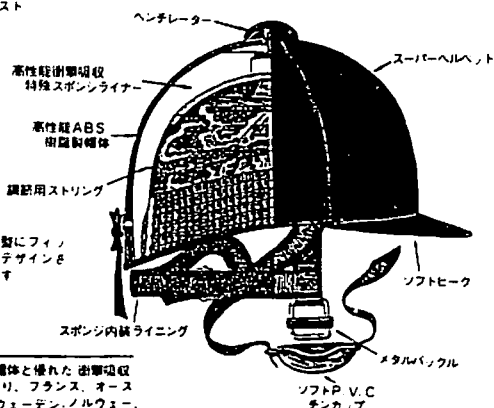
				T I M E
1位	久保田	アブサン	十勝柏友会	54.73
2位	品田	テキーラ	十勝柏友会	56.77
3位	本巢	ワッフォーザード	日高育成	58.36
19位	八木	ボレアス	モモセ	77.77
20位	鎗木	フライト	北大	77.90
22位	松原	グレンエトワール	北大	80.86



1987年「Soaga」(西独) 皇馬部門
インターナショナル・ベスト
プロダクト金賞受賞

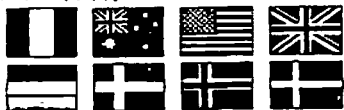
¥16,000

・日本人の顔型にフィッ
トする様にデザインさ
れております



世界に駆ける…ウエンブレ

WEMBLEY WORLD CAP は高性能ABS 樹脂帽体と優れた 衝撃吸収
機能を誇る特殊スポンジライナーを使用しており、フランス、オース
トラリア、アメリカ、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、
デンマーク、すべての安全基準テストに合格した、世界唯一のライテ
ィングキャップです。



Wembley
THE WORLD APPROVED SAFETY CAP

「確かさの証明」



国内総販売元

カバロ株式会社

〔〕カバロ神戸 神戸市中央区磯上通6丁目1-17 〒651
ウエンブレビル1F TEL (078) 251-6620
〔〕カバロ大阪 大阪市北区南田1丁目2番2-200号 〒530
大崎駅前第2ビル2F TEL (06) 344-0070
〔〕カバロ東京 東京都世田谷区上用賀2丁目3-1106 〒158
パンフィック興業公設科 TEL (03) 425-0944

◆第8回北海道馬術大会

《馬場馬術第2課目》

					得点率	%
1位	輪島	エアジョーダン	N.H.P		55.9	
2位	田伏	ウインディバー	モモセ		54.0	
3位	高田	アビリティー	彗星会		52.6	
9位	河合	北	瑛	北大	51.4	
18位	西村	北	凌	北大	47.5	
20位	米家	北	玲	北大	46.7	

《馬場馬術第3課目 成年A班》

1位	開発	オ	ス	カ	ー	フロンティア	57.6
2位	道谷	騾		天	鳳	酪農大	56.8
3位	細野	レ		オ	ン	フロンティア	56.7
19位	松原	明		日	檜	北大	47.0
24位	松原	グレンエトワール				北大	45.8
27位	鶴見	北			凌	北大	44.9
29位	笠原	北			瑛	北大	43.4
30位	西村	北			凌	北大	42.8
31位	溝井	グレンエトワール				北大	42.4

《馬場馬術第3課目 成年B班》

1位	瀬川	カソトッブイエロー	メインフィールド	57.1	
2位	加藤	騾	狼	酪農大	56.5
3位	深分	北	駿	北大	55.1
7位	河合	北	瑛	北大	51.3
19位	米家	北	玲	北大	45.7
20位	中田	北	駿	北大	45.6
22位	森沢	北	遙	北大	44.3
24位	中村	北	遙	北大	41.6

◆第19回北海道地区馬術大会

《馬場馬術第3課目》

					得点率	%
1位	瀬川	カソトッブイエロー		メインフィールド	56.7	
2位	村上	ミスジェニファー		札幌RC	56.0	

3位	島	パ	ブ	リ	ッ	ク	日高育成	55.9
19位	河合	北				瑛	北大	49.1

《馬場馬術第4課目》

1位	下屋敷	ハ	ミ	ン	グ	ダ	ン	ス	日高育成	58.4
2位	吉田	ト	ー	マ	ス				N.H.P.	52.2
3位	高橋	ア	ド	ニ	ス				モモセ	50.4
5位	河合	北				瑛			北大	41.4

《L級障害飛越競技 一般の部》

1位	村上	マ	ド	ン	ナ	北星RC	0	0
2位	川久保	ア	ン	ナ	クィーン	十勝柏友会	0	0
3位	早田	ジュ	ピ	ター	No.1	早田牧場	0	4
14位	鎗木	フ	ラ	イ	ト	北大	4	

《L級障害飛越競技 新人新馬の部》

1位	齊藤	鋭	飛	浦河高校	0	0			
2位	島田	モ	チ	ョ	ボ	ス	N.H.P.	0	0
3位	石井	ラ	ス	ト	チャ	ンス	早田牧場	0	0
24位	西村	北		凌	北大	8			
25位	松原	北		凌	北大	8			

《M級C障害飛越競技》

1位	吉田俊介	キオザドゥフォトネ	N.H.P.	5.5
2位	吉田勝巳	アップトゥデイト	N.H.P.	5.5
3位	布施	カリスタヒーロー	北星RC	8

《セントジョージ賞典》

1位	下屋敷	ハ	ミ	ン	グ	ダ	ン	ス	日高育成	56.9
2位	星野	オ	ス	カ	ー				モモセ	54.8
3位	吉田和美	ト	ー	マ	ス				N.H.P.	54.5

◆第30回北日本学生馬術大会（於北里大 8月4～8日）

《2回走行》

					一走目	二走目	J.O.
1位	加藤	駿	狼	酪農大	0	0	4
2位	平松	柏	雲	帯畜大	0	0	4
3位	安田	ダッシュ		岩大	0	0	4
	松原	明日	檜	北大	失権		
	黒崎	北	銀	北大	失権		
	深部	北	駿	北大	失権		
	谷地	ファストバロン		北大	失権		

《学生賞典馬場馬術》

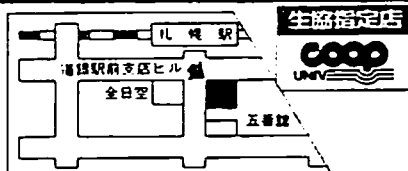
					得点率 %
1位	植木	アークトゥルス		東北大	50.6
2位	門脇	ザ・ジェネシス		岩大	45.0
3位	原田	アリゾナバイ		北里	42.9
4位	河合	北	瑛	北大	42.0

《総合馬術》

					調教	耐久	余力
1位	加藤	駿	狼	酪農大	-140	0	0
2位	黒崎	北	銀	北大	-153	0	0
3位	幌村	駿	王	酪農大	-156	0	0
11位	松原	明日	檜	北大	-149	-102	0
12位	深部	北	駿	北大	-165	-131	0
	米家	北	玲	北大	-172	-184	失権
	西村	北	凌	北大	-175	失権	
	松原	グレンエトワール		北大	-157	失権	

札幌駅前コニタクト

- 受付時間 10:00A.M.～6:00P.M.
- 定休日 日曜・祝日
- 学生割引あります。健康保険証をご持参ください。



〒060 札幌市中央区北4条西3丁目 道銀駅前支店ビル7F ☎(011)222-2122

◆第8回北海道障害馬術選手権大会

《一般L級障害飛越競技》

				減点
1位	久保田	アンナクイーン	十勝柏友会	0
2位	天羽	メイシヤ	日高KF	0
3位	楠木	イイデダイリユート	N.H.P.	0
5位	黒崎	北	銀 北大	0
6位	谷地	明日	檜 北大	3
19位	松原	グレンエトワール	北大	8

《特定L級障害飛越競技 新馬の部》

					J.O.
1位	高橋	ウエルカム	オーフル	0	0
2位	鈴木	ポインタール	オーフル	0	8
3位	鈴木	スーパージャッジ	酪農大	0	12
9位	鶴見	北	凌 北大	4	
16位	松原	北	凌 北大	14.25	

《L級スピード&ハンディネス競技》

				T I M E
1位	天羽	メイシヤ	日高KF	60"88
2位	久保田	アンナクイーン	十勝柏友会	61"36
3位	輪島	モチヨボス	N.H.P.	64"85
4位	八木	フライト	北大	66"15
6位	黒崎	北	銀 北大	68"22
19位	八木	ファストパロン	北大	106"48
20位	松原	北	凌 北大	108"25
21位	谷地	ファストパロン	北大	123"46

《L級障害飛越選手権競技》

				減点	J.O.
1位	天羽	メイシヤ	日高KF	0	0
2位	久保田	アンナクイーン	十勝柏友会	0	0
3位	谷	マドンナ	北星RC	0	0
4位	黒崎	北	銀 北大	0	-4
5位	谷地	明日	檜 北大	0	-4
6位	楠木	フライト	北大	0	-32

《M級C障害飛越競技》				減点	J.O.
1位	高野	テキーラ	十勝柏友会	0	4
2位	吉田	疾風	岩見沢RC	0	4
3位	山品	駄E	ゼロライディング	0	5

《M級Cスピード&ハンディネス競技》				TIME	
1位	村上	マドンナ	北星RC	62.53	
2位	笹田	柏神	碧雲クラブ	64.28	
3位	本巢	ワンフォーゼロード	日高育成	66.36	

《M級C障害飛越選手権競技》				減点	J.O.
1位	長谷川	メインベル	バイナノーズ	0	0
2位	鈴木	ウェルノン	オーフル	0	0
3位	高野	テキーラ	十勝柏友会	3	

◆第16回山下杯河田杯記念馬術大会（於酪農学園大学 10月16日）

《ジムカーナ競技》

					減点
1位	佐久間	騾	炎	酪農大	0
2位	開発	騾	鷹	酪農大	0
3位	平間	カミノヒカル		酪農大	0
8位	北村	グレンエトワール		北大	1
12位	亀山	グレンエトワール		北大	4.5
13位	村田	北	凌	北大	5.5
15位	丸山	北	凌	北大	12.5

《新人新馬障害飛越競技》

1位	田中	騾	炎	酪農大	0
2位	北村	グレンエトワール		北大	0
3位	清水	カミノヒカル		酪農大	0
6位	保坂	ポントーノ		北大	1
7位	八木	北	旋風	北大	8.75
8位	溝井	グレンエトワール		北大	9.25

《L級障害飛越競技》

1位	鍋木	フライト		北大	0
2位	平田	カミノヒカル		酪農大	0
3位	沖山	ダイナバトラ		酪農大	0
4位	松原	北	凌	北大	0
9位	鶴見	北	凌	北大	7.75

《M級C障害飛越競技》

					減点	J.O.
1位	加藤	騾	狼	酪農大	0	0
2位	道谷	騾	天鳳	酪農大	0	0
3位	谷地	明日檜		北大	0	0
6位	八木	エルク		北大	0	6
10位	黒崎	ポントーノ		北大	11.5	

◆OB戦（於北海道大学 10月23日）

《小障害飛越競技》

					減点
1位	近藤	フライト		OB	0
2位	中村	北	銀	現役	0
3位	高野	北	凌	OB	0

4 位	谷地	グレンエトワール	現役	0
5 位	鶴見	北 凌	現役	0
6 位	玉沢	北 銀	OB	0
7 位	河合	フ ラ イ ト	現役	3
8 位	前田	グレンエトワール	OB	4
9 位	野中	グレンエトワール	OB	4

《ジムカーナ競技》

T I M E

1 位	祝前	ファストバロン	OB	32"50
2 位	野中	グレンエトワール	OB	33"42
3 位	亀山	北 瑛	現役	38"70
4 位	近藤	ファストバロン	OB	39"24
5 位	池田	北 瑛	現役	39"48
6 位	斉藤	北 瑛	OB	41"33
7 位	千葉	グレンエトワール	OB	52"53
8 位	前田	北 凌	OB	76"45

◆第17回国立九大学定期戦（於群馬大学 11月27日）

出場選手 北村 薫・村田

1 位	群馬大	2 位	新潟大	3 位	宇都宮大
5 位	北大				

◆全日本学生馬術大会（於馬事公苑 12月7～11日）

《第37回全日本学生賞典総合馬術競技》

調教

耐久

余力

1 位	佐伯	明撞	明治	- 1 2 5	0	0.5
2 位	松本	明月	明治	- 1 2 6	0	6
3 位	北原	明旗	明治	- 1 3 6	0	0.75
失権	黒崎	北銀	北大			

《第44回全日本学生賞典障害飛越競技》

一走目

二走目

1 位	上村	セントイーグル	同志社	0	0
2 位	清水	桜守	日大	4	0
3 位	今川	慶騎	慶応	0	4

《第37回全日本学生賞典馬術大会》

1 位	北原	明菱	明治
2 位	水町	桜銀	日大
3 位	佐藤	白登	中央

北銀号調教報告

黒崎雅人

昨シーズンの北銀は、けがのためあまりふるわずに終わってしまった。右前の球節上部を疲労骨折（これは今年の夏に、OBであり日本中央競馬会の獣医師である本城さんに診てもらったときにわかった）していた北銀は夏の間は始終水冷を行い、常に跛行をしていた。長年けがなどほとんどしなかった北銀もとうとう寄る年波には勝てないのかという声さえもあった。

シーズンが終わり長い馬休の後、僕が騎乗を始めたのは晩秋の頃からだった。それまでは手のあいている下級生が常歩で三十分ほど歩かせるだけであつたが、常歩でも得ることはあるという八木さんの忠告により僕が乗るようになった。季節は冬に移り、寒さの中で相変わらず、ギンのつまずきながらの常歩に来年の不安を感じていた。結局、年内はこのまま常歩しかできずに終わった。ギンの筋肉は衰え、背中も急激に落ちたように思えた。

冬合宿では前半の間はこの調子で僕が乗っていたが、後半にはいと急に元気になったらしく、放牧中に走り回っていたために部班に参加させたところ一年生が乗ってもそれなりにこなすのでそのまま使ったということだった。しかし、冬合宿の経路回りを見るとギンは重そうに走っていた。

年明けから徐々に運動を再開していったが、半年もまともな運動をしていない上に、明け15才と乗馬としてもかなりの年齢であり、また前肢のけがも完全に治ったかどうか分からず、たとえ直っていたとしても運動量をあげると再発するのではないかと不安が頭をかすめておそろおそろと練習を行っていた。しかし秋には常に熱を持っていた前肢も、季節のためか全く熱を持たなくなった。

ギンは歩幅が小さく、歩様がちょこちょこしていることは以前から指摘されていたことであったがケガの後であったためか非常にひどく、まともに速歩ができない状態であった。少しでも歩度を伸ばそうとすると、すぐに駈歩に逃げるようになった。人がバランスバックすることや、緩やかな脚を使うことである程度は防げたが、それでも跛行にも似た歩度の短い速歩はひどいものであり、乗っている本人はもとより下から見ていている人にも大丈夫だろうかという気を起こさせた。

この状態を解決したのはキャバレッティーによる運動であった。普通の1.4 mの幅から、徐々に間隔を広げていった。この時期にいくつまでやったかは記憶が定かではないが、秋頃には1.8 m位まで速歩で通過できるようになった。ギンの調子が良いとき（足の腫れ、痛みがなく体力が余っているとき）は、スムーズにまた大きな間歩でも通過することができた。しかし調子の悪いときには、すぐに一步入ったので、ある程度の“健康のバロメーター”になった。キャバレッティーは肢への負担や体力の消耗が少ないので、多いときは毎日できたし、また必要なときに必要なだけできた。

ギンは障害に向かっていくタイプの馬であったが、キャバレッティーでも同じであって。そのため、重くてどうしようもないときであってもキャバレッティーを何回かこなすうちに馬にやる気が出てきてその後の運動を楽しむことが出来た。

障害に関しては人間は馬に完全に頼っていた。今までに何度となく全日学に出場の名馬と、去年一年間ともに障害をやっていない人間が、冬の三カ月間で急いでシーズンに間に合わせるには、ギンの能力を信じてやっていくしかなかった。二年間全日学出場はできなかったが、コンディショニングを整えて万全でのぞみ人が邪魔をしなければ絶対に総合では権利を取れる。そうでなければ離脱だぞと。

最初は小さな単一障害、それからコンビネーションと疲れさせないように徐々に筋肉を回復していった。筋肉が落ち、まさに貧弱な体となっていたギンはこの頃から尻の筋肉をはじめ全身のが戻ってきた。新馬と違い多くの障害を飛ぶことができないと分かっていたので、少ない回数で効率よく運動を行い、少なめで終わらせることを心掛けた。

また、何度も書いたが今年のギンは前肢の故障に悩まされた。そのため、できる限り速歩や駈歩のうち常歩でもできることを、常歩での運動に置き換えた。できると思ってやると、以外と多くのことが常歩でできることに気づいた。基本的な横運動やハミ受けは、ほとんど常歩での運動で行った。このとき、十分に推進することが大切である。常歩ではコンタクトを強めに持つと、どうしても遅くなりすぎ運動に支障を来すことが多いが、そんな運動では体が十分に柔らかくならない。ただ、やはり常歩にも限界があるので、当然全てのことを常歩のみでやることは不可能である。また、外乗においてもしっかり歩かせることで準備運動の一環にもなれば、リラックスさせて歩かせれば休息にもなる。そのことをもっと意識すればより効果的ではないか。

駈歩はギンが最も得意な歩法である。それゆえ、どんな運動でもうまくいくことが多かった。特に駈歩での輪乗り（直径 15～20 m）は、横の柔らかさ、ハミ受け、脚の反応とギンの問題点の多くを同時に解決する有効な手段であった。

速歩はギンが一番苦手な歩法であると思う。それゆえ、ハミ受けさせたり、活発に歩かせることは難しかった。調子の良いときには速歩のみでもうまくいくが、そうでないときには、常歩→速歩→駈歩の順に準備運動を行うことにとらわれず、駈歩で調子を整えてから速歩に戻すことも必要である。また、先の文にも書いたが、正反撞は人も苦手であったので更に難しかった。これも同様にきっちりと準備運動をこなしていけば解決するのではないだろうか。僕自身は、去年の部報に書いたこととは裏腹に、ギンでは障害重視であったので正反撞はあまりやらなかった。正反撞の問題は、ギンを降りた今でも未だ解決していない。

冬季の運動は、キャバレッティーとコンビネーションを中心に歩様の改善と筋肉の回復を、体力

の消耗を極力抑えながら行った。

三月末に新二年目の試合である東北大定期戦があった。この試合に使用した。馬歴一年の新二年目の試合とあって、90 cm 以下の小さな障害飛越競技であったが結果的には北海道大学・東北大学の選手とも満点で帰ってきた。試合内容は、ギンが勝手に走って人がそれに乗っているだけであったが、障害に対する意欲は以前のものであったし、全く問題がなかった。馬なりに爆走してしまい、タイムが早い方が上位になるというルールのため一位・二位を独占した。

僕が出場した初めての試合は半澤杯であった。エントリーは、馬場3課目・複合馬術競技・小障害飛越競技、それと下級生枠で新人新馬飛越競技であった。3課目のときは、九カ月ぶりの本格的な試合とあって、北大の馬場であったにもかかわらず非常に興奮して手に負えなかった。気合いが入りすぎ人の手の内に入らずに困っていたとき、八木さんに乗っていただいた。八木さんのおかげで馬は人に従うようになり、その後は比較的容易に手の内に入れることができた。このときにどんな状況でも馬を手の内に入れるきっかけをつかんだような気がした。試合では前進氣勢は馬の気合いだけにまかせていたので推進する必要がなく、人は余裕をもって乗っていた。ギャロップのときとは違い、実力をかなり出せたと思う。満点とは言いがたいが合格点はとれたと思う。続く複合の馬場競技でも同様に馬の気合いをもっていったが、課目的に難易度が高く特にハーフパスが全くできなかったので審判の印象が悪かった。これは普段の練習、特に横運動の練習不足以外のなにものでもなかった。しかし、この二鞍で馬場の試合の準備運動の方法が分かり非常に参考になった。

複合の障害は満点であった。馬場の運動の良い状態が多少残っていて、準備運動も苦勞することなくできた。馬のベース・前進氣勢などもよく、良い経路走行ができたと思う。ただし、最初の方の障害に向かうベースが遅く回りから見ていると非常にこわいと言われた。乗っている本人は多少の遅さは感じたが止まるほどのことではなく少し脚を強めに使えばよいと思っていた。しかし、これはあきらかに準備運動できちんと前進氣勢を持たせることが不足していた。続く小障害では、多少馬が疲れてきたようで、脚の反応が鈍くなり障害前での不正駢歩が増えたため、一落下があった。小障害は二段階競技であったため、次の段階(Jump Off)には進めなかった。

下級生の出場した新人新馬では、馬が勝手に走っていたが障害の高さが低かったので落下はなく満点で、Jump Off に出場した。Jump Off では馬の疲れが最高潮に達し、準備馬場では重くて動きたがらなかったが本馬場に入ると先ほどと同じように走り、準優勝で帰ってきた。結果的には良かったが、障害の試合としては自分が思っていたことを伝えられずに終わってしまった。

半澤杯では少し使いすぎたようで、試合後にまた前肢を腫らした。二週間後の馬場馬術大会には出場ができなくなったものの、ギンの体力の限界を知ることができたと思う。半澤杯後約一カ月の

間はまた常歩と少しの速歩で前肢の腫れの機嫌を伺いながらの運動をしていた。シーズン中にケガのため常歩のみをせざるを得なかったことは二度あり、これが一回目であった。

このような日々が五月中は続き、六月に入り再び運動を再開した。十分に休ませたため、ケガ後の回復はほぼ完全であったと思う。自馬大の前にノーザンホースパークにスティーブル馴致に行った。北日前唯一のスティーブル馴致になってしまったが、全体のペースと馬の前進氣勢が不足しており、暗い林の中の多少ボリュームのあるウッドパイルで三反抗、八木さんに変わってもらってその後は飛んだが竹ぼうきでまた一反抗、とあまり良い成績ではなかった。

続く自馬大会には、1級と3課目に出場した。1級は一落下、3課目は全体の中で半分くらいの順位とあまりぱっとしないものではあったが、全く手応えがなかったわけではなかった。

少し話は変わるが、ハミ受けのことを少し書きたいと思う。障害を飛ぶに当たってもハミ受けは非常に重要であった。もともとハミ受けは良く、これに関しては問題のない馬ではあったが、良い運動をしてやれば更に良くなり、悪い運動では悪くなることは当然で、口向きを良くすることに日々の運動で多くの時間を割いた。

ギンは障害を飛んでいると馬が勝手に前に出てくるが、その前進氣勢をブレーキをかけることなく、ハミを使ってうまく体にためることが必要だと思う。つまり、前進氣勢がありなおかつ手の内に入っているという障害に最適なスピードは、ハミ受けが良くないと作り出せない。ハミ受けは馬術を行う上で一般的に重要な要素であり、障害飛越であっても馬場馬術であっても必要である。

ギンは極端に左右の硬さの違いがあり、左手前が苦手であった。そのため、左駈歩が出にくかったり左に回転しにくかったが、しっかりと運動してやれば左の硬さは次第にとれていった。前に書いたように、駈歩での輪乗りが一番効果的であった。ただ、どちらかの手前のみを重点的にやる必要はあまり無いと思う。苦手な手前であってもきちんとハミを受けさせ、きちんとした内方姿勢をとらせることにより、苦手な手前というのは存在しなくなった。体の柔らかさは、ハミ受けと密接な関係がある。

七月の第一週の週末に畜大へ馴致へ行く予定になっていたが、出発の当日に放牧地でケガをして肢を大きく腫らし馴致へ行くことができなくなった。ギンにも乗れなかったので人だけ帯広へ行きスティーブルの回り方を見てきた。結局このケガのため、翌週も馴致へはいけずにノーザンホースパークに行った一回の馴致で北日に出場することになったし、出発の直前まであまり運動ができなかった。

出発前の数日と輸送の二日、北里に着いて一日馬休にしたため輸送による疲労はなく反対に少々

はっているくらいだった。ギンの体の硬さもほぼ一日でとれ、順調ではあった。自分自身も大きい試合のわりには緊張をせずいた。もともと物見をする馬ではなかったのも、北里の環境には驚きもせず北大の馬場と変わらずに運動ができた。

しかし、試合になるとやはりいつもとは違っていた。まず、準備馬場が他のどの試合よりも小さく、権利のかかった試合のため全ての選手が必死になっていたのも非常に準備運動がやりにくかった。また馬もその雰囲気を感じておりなかなか落ち着かずにいるように思う。あまり馬体をほぐせないままに出番が回ってきたが、この時点までの北大の結果としては、去年に引き続き権利獲得が有力視されていた松原－明日絵がまさかの三反抗失権、深部－北駿も失権と北大勢は全滅であった。自分自身では二回走行においては三番手であると確信していたので、何とか帰ってこなければならぬと思い本馬場に出た。ギンの体が十分にはぐれていたとは思えないが、いつも以上の前進氣勢があったのでそれほど苦労せずに飛越させることができた気がした。ただし、経路走行が調子に乗るまでの一番・二番障害においてはややつまっていた。これは他の人が見たら非常にこわい場面であるが、当の本人はいつものことなのでそれほど気にはしなかった。その後は五番障害で向かい方がまずく一反抗、七・八番の連続障害で一反抗。この七・八番障害は今まで飛んだどんな障害よりも難しかったと思う。総合を主体として今までの試合に出場していたので、障害に関してはL級のみのしか出場していなかったため、四連続障害などは飛んだことがなかったし、出発の直前運動がほとんどできなかったこともあり練習不足であった。この連続障害は、三・一・二間歩の四連続障害であったが、最初の三間歩の時に馬が速過ぎ、詰めることができずにかろうじて八番のAは飛んだが、続くBはあわずに止まってしまった。この障害を早く終わらせたいという人の焦りからギンの状態がうまくつかみ取れずにいた。そして、ギン最大の難関であった十番のレンガがやってきた。九から十番障害の少し長い間で前に出したつもりであったが、十番障害に近づくにつれて見る見る遅くなりここで三反抗失権した。予めこの十番障害の難しさはわかっていたが、自分の実力の無さを見せつけられたようであった。翌日の二走目に再起をかけて出場したが、結果は一走目よりも悪く八番で失権。この日は人の焦りのため人馬が一体となれず、バラバラのまま終わった。

二回走行では二日とも失権という結果になったが、焦るというよりは一からやり直すつもりで総合の調教審査に臨んだ。頭の中を障害重視から馬場運動重視に切り替えて、勢いだけの運動ではなくハミや体の硬さを徹底的にはぐしてしていった。この日は当然ながら準備馬場に障害はなく、また調教審査ということもあって準備馬場は空いていたので思い切り自分のペースで運動ができたと思う。準備運動が半ばにさしかかった頃に横幕さんに、これまで出場した馬は全体的にゆっくりであり活気がないので前進氣勢をつけていくといいだろうと言われてから速歩中心の運動を駢歩中心に変えた。試合になり、苦手であった速歩区間は良いとは言えない結果であった。ギンはな

ぜか本馬場にはいるととたんにハミを受けなくなる。連続した正反撞のためかもしれないし、緊張感のためかもしれないが結局この一年間克服できなかった問題である。続く駢歩区間では、手の内に入る範囲で十分に前に出ている。拳が強すぎて屈頭しすぎていたかもしれないが、輪乗りの図形・歩度の詰め伸ばし・踏歩変換などは満足にできて、駢歩区間に関しては良かったと思う。調教審査が終わった時点では七位。良くも悪くもない順位であると思った。この後は、目標である耐久・余力を満点で帰ってくることを念頭においた。

耐久審査の日、昨日までの疲れがあるのか最初はおもかった。準備馬場では軽めに幅のあるオクサーを数回飛んただけであった。まだ馬体は温まりきってはいなかったが、A区間があるのでそのうちに気合いも入ってくると思っていた。準備運動が思いの外早く終わってしまったので、A区間出発まで十分以上もあった。これ以上運動をしても体力を消耗するだけだと思い、牧草地で歩かせていた。ものすごく暑い日であり、木陰も無かったので炎天下の中を常歩で小さな輪乗りでをしていた。今年の猛暑の最盛期で立っているだけで汗が出てくるような中で、ギンはすごく汗をかき興奮し、今までなかったほどに気合いが入ってきた。A区間をスタートする頃には手に負えない程で、シケレベのようになり、手綱をゆるめただけで駢歩をしてしまう始末であった。A区間ではこれを何とかなだめて落ち着かせようとしたが、最初の半分の区間は全く手に負えずにハミと手綱の引っ張り合いであった。後半にはいり何とか落ち着きを取り戻したが、最後に駢歩での詰め伸ばしをしようと思ったら元の状態に戻ってしまった。D区間のスタートボックスには十秒ほど前に入ったが、どうにも落ち着かずしきりに前に行こうとするので、ハミを強めに持ち押さえていたら後退を始め、後肢でスタートボックスを蹴飛ばしていた。このときスタートだったので、すぐには出れず少し遅れてスタートした。

前をゆるした途端ギンはすっ飛んでいったので、しばらくは馬が勝手に走っていた。するとすぐに大きな牧草地にぼつと一番障害があり、これを嫌がって大きくよれたが、何とか飛ばせることができた。その後もギンはすごい前進氣勢で走り、ブレーキを掛けることはあっても推進をすることはまず無かった。三番のスキージャンプではさすがに少し嫌がったが、軽い打脚でいきなり飛び降り、人が遅れた。スキージャンプを降りるとすぐに左回転をしなくてはいけなかったが、遅れたため手綱をゆるめに持っていたので十分に対処できず、何とか曲げたものの次の飛び上がり障害の準備がとれないままに飛び、飛越後あらぬ方向へと走っていった。その後の林の中は松原の「時間は思ったより余裕があるから、あまりスピードを出さずに丁寧に言った方が良い！」と言う忠告なるべく守って進んだ。林の中の一本道の曲がり角に各大学の学生がいて応援のがっちりの声援を送ってくれたことがあったが、ギンはそのがっちりの声に驚いて林の中に逃げそうになった。そのとき「うるさい黙れ」と叫んでしまったが、訳も分からずに怒られた下級生の皆さんすみませんで

した。その後、特に問題は無かったが、六角障害で連続で飛んだ後つめるのが遅れ、またコースから外れてしまった。結果は三十秒ほど時間があまり、耐久を満点で帰ってくることができた。

耐久審査が終了した時点で、順位は二位。何としてもこの順位を守りたかった。余力審査の日、耐久の時とは反対にギンは疲れ切っていた。この日は乗り始めたときから最後までずっと重かった。常歩で歩かせて馬体をほぐそうとしても動きが鈍い。準備馬場に入っても一向に改善しない。障害を何度か飛んだが、全くあっていない。もっと前に出せと言われたが、どうやっても出ない。これ以上無駄な準備運動を続けても馬の体力を消耗するだけだと思い、準備運動を途中で切り上げて常歩で歩かせることにした。

後は運を天に任せて、試合に臨むしかなかった。障害に向かう前に馬場を一周大きく駈歩で走らせ、軽く鞭を入れて追った。そのときは瞬間的に軽くなったが、障害を飛ぶ直前に急に重くなり止まりそうになる。前肢が上がるまでしっかりと推進をしなければ止まるのではないかと思い遅れながらも最後まで推進した。北日学の余力審査は110cmまでで、今までし級には慣れていたし、経路自体も簡単であるので大丈夫だろうとたかをくくっていたが、予想以上に大変なことだったと後から思う。必死になって飛ばしたのが良かったのか、何もしなくてもギンは飛んだのかは分からないが余力審査も満点。これで総合競技で準優勝。全日への出場が決定した。

ギンは、北日学で体力的には疲れたようであったが、肢の方は何も問題がなく、一週間もせずに騎乗を再開することができた。

北日学から全日学の間で出場した試合は障害選手権だけであるが、来年乗るであろう中村がOB戦に出場した。今から思うとギンの絶好調の時は障害選手権のあった九月終わりから十月の初めの頃であったと思う。このころは歩度はきれいに伸び、ハミ受けも良く馬体も柔軟であった。その後気温が下がり、馬場が凍る頃になると、十分な運動ができなくなった。この一年を通じてあまり練習で運動を多くすることはなく、馬体を疲れさせずにいかに有効に馬を仕上げるかを目指していた。夏の頃は常歩でもある程度の運動ができ、馬の調子を維持できると思っていたが、実際寒い中で常歩のみの運動ではうまく行かないことも多かった。馬場の様子を伺いながら、速歩などもしたが思い切りやれずあまり改善はしなかった。夏には全日学は十二月でも構わないと思っていたが、北海道の十二月は完全に冬で満足に馬に乗れる状況とは言い難い。また、北大の中では全日学というよりは次の代のことに話題が移っていったように感じた。

東京に来ると暖かく、非常に助かったが、一ヶ月くらいの間満足のいく状態にならなかった馬を知らぬ土地で仕上げるのは難しかった。結局最後まで馬の調子というものを掴みきれなかった気がする。総合競技は到着から一週間くらい後に競技がありその間十分に調整ができると気楽に構えていたが、なぜか全く調子が上がらずに試合になってしまった。調教審査は今シーズンで最悪の馬場

であった。馬と人の息があわずただ闇雲に前に出すだけであった。当然調和だとか従順ということが欠けていたのは言うまでもない。

試合は週末ということもあって多くのOBの方が見に来てくださった。その時、横山さんにはいろいろをアドバイスを頂いたし、また酪農のOBの人村相哲さんにも相談した。北日本で馬事公苑のステイブルを回ったことがないのは僕ぐらいであったので選手の方々にも教えて頂いた。何度もステイブルコースを下見し、いろいろな意見を参考にしたが、やはり悩むところはいくつか残ったままであった。この悩みは試合当日まで解決しなかった。試合の直前に少し強気になって迷いを断ち切った。しかし、これが裏目に出てしまった。全日の耐久の日も、北日と同じようにギンの気合いは十分であった。それを信じてほとんどのコースで迂回路を通らずに行こうと決めた。最初は順調に進んだが、走路から中に入るL字型の七番障害で馬体が立て直らないまま曲げようとしたが、ギンは全く飛ぶつもりではなく一反抗。すぐ次の大乾壕は、最も悩んだ所であったが最初に直線と決めたので、そのまま直線に向かった。L字障害から大乾壕までの百メートル弱の直線でギンが失速していったのが分かったがさらに推進してそのまま大乾壕に向かった。乾壕の大きさにギンは驚き、止まりそうになったので最後の脚を使った。普通なら止まっていたであろうが、最後の脚のため止まりきれずに馬とともに大乾壕の中に落ちてしまった。乾壕の底からギンがもがいているのが見えた。幸い人馬とも自力で乾壕より脱出でき、また大したケガはなかったため審判の判断で試合は続けられることになった。人は焦り、訳が分からないままコースを回った。人馬の関係は崩れかかり、ギンは完全に障害への自信をなくしていた。ウサギ飛びの障害はクリアーしたものの、小さなスキージャンプで反抗し、そのまま失権となった。

後から思うとこの耐久ほど心残りの多い試合は、他に経験したことがない。冷静に考えると自分のした失敗はあまりにも馬鹿げている。北里のコースに比べ馬事公苑のステイブルコースには多くのトリックがある。そんな罠にはまってから気づいたようであった。

最後に馬に乗るに当たっての人間の心構えというか、要するに技術ではなく、馬との関係や人の気持ちの持ちようといったことを書きたいと思う。

馬術においては馬は、パートナーであって敵ではない。ギンのように人間に素直に従ってくれる馬に乗っていたときにはそう感じなかったが、卒部して少々一筋縄では行かない馬に乗るようになって感じたことであるが、馬を従わすには大雑把に分けると二通りのやり方がある。一つ目は鞭でも打脚でもとにかく力で無理やり押さえつけて従わせることであり、もう一つは馬をほめて気持ち良く従わせることである。このように書くと、当然どちらがより賢明かは明確に分かると思う。た

だ、馬によっては少々気むずかしく簡単に行かない馬もいる。何事にも例外はある。

OBの目から見ると今の現役部員（特に技術力の乏しい下級生）は、かなり一つ目のやり方に近い方法で馬に乗っているように思える。もちろん本人たちはそのつもりでやっているのではないが、馬が曲がりにくければ力でも何でも使って曲げようとする。馬の精神状態は悪くなり、調教上でも問題である。場合によっては力ずくも必要ではあるが、あまりにも短絡的すぎるのではないか。

「気持ち良く従わせる」と書いたが、そのためには馬に自分を受け入れてもらい、馬に自分を理解してもらう必要がある。馬に理解してもらうには自分も馬を理解しなければいけない。常に馬の気持ちを考え感じ（馬を感じたつもりになっただけではいけない。独りよがりではいけないということ）、それに即した行動をとらなくてははいけない。馬の心の中は人の頭の中だけでは推し量れないものであり、いつも同じ心境であるはずがない。常に馬と対話をしなければいけない。馬は当然言葉を解さないし、言葉を発しない。しかし、乗っているだけでも多くのことを話しかけてくる。それらをもっと注意深く騎手が受け入れなくてははいけない。拳で、脚で、騎座でそれらのコトバを受け取らなくてははいけない。騎手はもっと馬に対して敏感にならなくてははいけない。馬を知らない素人には無理な注文ではあるが、一年以上も馬に乗り毎日世話をするような人であれば分かって然るべきことではないか。ただ、たかだか馬歴四年の人間が言うのだから大したことはない。要は馬のすることに対しどれだけ注意深く観察し、受け入れ、馬を理解し、このことに基づいて行動するかである。

それでも、馬に乗っているとき、馬は自分の思い通りにいかないことは多々ある。その時になぜ馬はそのような行動をとったのかを考えると案外簡単なことに起因する。馬の過失ではなく、人間の過失である方が多いと思う。これは気をつけなくてははいけない。また、馬の反抗は人間に対する不満の現れであり、騎手をもっと考えていけば解決すると思う。馬は本質的には人に従う生き物であるから仲良くやれば従うし、馬を理解すれば自分も理解してもらえると思う。

馬は自分を陥れる敵ではなく、自分を助けてくれるパートナーである。

地下鉄 北24条駅 下車徒歩5分	遅 転 免 許
普通 大型特殊	大学生協指定
北海道公安委員会指定	新型教習車
北海道中央自動車学校	コンフォート（ミニクラウン）
〒065 札幌市東区北25条東1丁目（創成川沿い）	登場！！
TEL. (011) 711-3344	

北玲号

米家 直子

この一年間私がやってきたことは、部員みんな、OBの方々、そして何よりおちょに対して申し訳ないことばかりでした。同じ失敗を繰り返してほしくないという気持ちで、一年目、二年目に伝えなくてはならないこと、調教報告から外れたことも書こうと思います。

北日の後、岡部さんが入院されることになり、北玲の運動管理をすることになりました。当初はもちろん全日に向け、北日で疲労した体力を回復させること、そして馬体をベストに持っていくことを考えました。調教者としてではなく馬責として運動の計画を立てました。外乗を中心にして、体力が北日前に戻ってきてから農場駆歩、北大富士での駆歩、常歩、での登り降りをほとんど毎日繰り返してやり、とにかく耐久力、筋肉を落とさないことに努めました。一カ月位してからもともとあった胸筋が更に厚くなり、おちょの気分的なものも非常に良くなって、この頃は岡部さんの退院が楽しみでしょうがなかったのを覚えています。気になることは後驅の筋肉が前驅に比べて発達してこないで、お尻の筋肉の割れ目が浅いことでしたが、牝馬は外に現われてくるようなムキムキした筋肉のつき方はしないがきちんと内についているからと野中さんに教えていただいたので特に問題はないと考えました。

この頃から、岡部さんに言われて調馬索運動を取り入れるようになりました。私の技術の無さ、信頼関係の無さから全く落ち着いた運動ができずにフラットな状態で走らせてばかり、きれられてばかりの連続でした。横幕さん、四年目の方々に見ていただき、毎日の繰り返して徐々に安定し声への反応も良くなりましたが、自分の拳の感覚の鈍さと肘の堅さのため、手前のかえ方、運動の時間など色々と試してみましたが結局の所まともに運動させることはできませんでした。

この頃から一転して騎乗日誌が暗くなり、「どうしたら良いのか分からない」「全然良くならない」というようなことばかり書き始めています。全日馬の運動管理ということで、始めからやたら肩肘を張っておちょと付き合おうとしていたということが今更ながらよく分かります。良い意味でのプレッシャーではなくただの重圧と感じてしまい、この重さというか暗さというものは北日までずっと離れずに付きまといました。二年目の秋に運動管理をするようになると中にはやっぱり私のように変になってしまう人もいます。そういう人はとにかくいろんな気持ちとは別に、一本太く、楽しく騎乗するという当然の気持ちを忘れないようにして、人馬ともに落ち込まないように要注意することです。

チーフに決まってからは大まかに次のことを決めました。まず総合だけと考えていたので、障害のレベルとしてはおちょに特に問題は無し、とにかくまず騎手がうまくなること。走行という段階ではなく障害姿勢という段階で。次に耐久力を落とさないためにスタミナのつく運動内容を長期に渡って計画すること。3つ目にフラットワークの中で正反撞を中心に、騎坐などの自分の練習と割り切った時間を持つこと。（軽速歩より正反撞の方が一層肘が堅くなるので、馬が恐ろしくひどい状態になった。そのためこんなふうを決めてかかれないと恐ろしくてできなかった。）そして当然のこととしておちょとの信頼関係、おちょの馬体管

理。

コンビネーションのことを詳しく書きます。馬場状態を見ながら週3回程度、速歩のコンビネーションを繰り返しました。高さはメーターまでとして、丸く飛ぶように少し間歩を狭くし、やや左に寄っていくクセがあるので最後はバッテンオクサーという原則でやりました。騎手が前にのめってしまいゆっくり飛べず速くなってしまうこと、左に寄っていくクセが治らないことが最初の問題でした。直線から速歩を出すこと、飛んだ後直線上で一度止めること、騎手の時間的な慣れから前者の方はマシになりましたが、後者の方は解決できませんでした。左側にバーをかけたりもしてみましたが、やっぱり騎手の左右のバランスが安定し、それを繰り返していくことができれば治らないように思います。土が見え出して地面が良くなってから、最後のオクサーの幅をどんどん広くして滞空時間の長いものを良くやりました。低めで2M近い幅のものです。これは良い練習になり、色々な幅障害でこの慣れは役に立ちました。

障害ではこんな感じでおちよの能力のこともあって深刻に悩んだりはありませんでしたが、一番の基本であるフラットワークが全くまともにできず、ずっとうまくいきませんでした。この原因は明らかで、私の肘の使いが堅かったこと、騎坐ができていなかったことに有ります。特に、下級生のときに騎坐の大切さがみじんも分かっていなかったのが今になって愚かに思えてしょうがありません。（一年目にはもちろん、二年目にもやっぱり調馬索を回していることや、うるさく脚を引くことを言っているのは自分が失敗しているからです。二年目にもなって「どうして今頃調馬索？」と思うかもしれませんが、コンスタントにリラックスして正反撞の練習をすることは座れるようになる近道です。諸農はこのことをよく分かっているから一年目の練習は本当にこればかりです。） もう一つ、小さいけれども原因があったと思います。おちよは北大の馬の中でも良い状態になる、生き値というものがかなり高いということです。いったん良い状態になると驚くほど従順で敏感になるのに、たとえば下級生が騎ると勝手にあらぬ方へ行ってしまう、まるで誰も騎っていないようなふうになってしまうということです。普通なら、また少なくとも古馬ならその騎手の技術なりに一応動くものですが、おちよはそういうことがない。このへんがおちよらしい所なのですが、騎っている本人は「許せない」と思い、悲しくなるでしょう。私が下級生の時は殆どおちよ馬配は無かったのですが、たまに騎るとちっとも動かずショックでした。ギャロップに騎った次の日だったりすると「一日でこんなに下手になることがあっていいのかしら」と落ち込んだこともありました。ある日、岡部さんにそのことを訴えてみると、岡部さんはただ笑うだけでした。今、おちよに騎り終わった後あんまり妙な顔をしている人に、色々コメントをした後「あんまり気にしなくていいよ」と言うのはそういうことです。逆に、このおちよの気性から、ビシッと良い状態にしておちよの従順さ、敏感さを感じることができなかったということは、底辺を彷徨いきっかけさえも作れない、そういう状態で自分がおちよに騎乗していたということなのです。

北瑛号

河合 由枝

私が北瑛に乗ることが決まったのは1月中旬でした。最初に乗ったとき、馬体は硬く脚に対して反応が鈍く、脚を使っても後肢が踏み込んでこず小さくあせったような速い動きになってしまうように感じました。また、ハミへの抵抗が激しくハミを持つと頭を上げてしまい、頭を下げた運動さえできない状態でした。馬の状態も決して良くはなく、また自分の技術の未熟さから満足な運動、正反撞の練習など全くできない日々が続きました。

3月までの目標として

- ①ハミうけ（頭を下げた運動をさせること）
- ②大きく体を動かした運動をさせること
- ③何よりもまず自分が上手くなること（正反撞の確立）

としました。まず、自分の技術の向上が第一だと考え、春休みを利用して乗馬クラブに乗りに行きました。そこで、ハミうけのできた馬でのハミうけの練習、そしてとにかく正反撞で乗ることの練習をさせてもらいました。やはり正反撞はある程度鞍数を重ねることが必要だと思いました。しっかりと前を持ち、脚を使って馬を押し出すことの練習を毎日させてもらいました。次第に何かを得られてきたように思いました。

4月に入り、ある日北瑛の頭がふっと下がりました。今までどうやっても少しも下がらなかった頭が軽く下がったのです。そして馬がハミを求めてくるようになりました。頭を下げ、背をまるくして運動ができるようになり、馬にバネができたように思いました。このころから馬の腰や背中の状態も良くなり正反撞での乗り込みもできるようになりました。

（1）半澤杯（3課目、複合（馬場のみopen出場））

半澤杯までにある程度の手応えを得、自分なりに納得して臨んだつもりでしたが、準備馬場では練習通りの運動ができたもののいざ本馬場に入ると馬が重くなり、体を硬くして突然扶助に対して鈍くなってしまいました。結果として、速歩は非常に前進氣勢に欠け、駆歩では馬は脚に対して反抗を示し、全体的にバタバタした感じになってしまい、馬の動きはぎこちなくちょこちょこしたものに終わってしまいました。目標としていたメリハリのある運動もリズムカルな速歩も全くできず、練習時と試合での馬の状態の違いを痛感しました。そして、まだ馬が自分の扶助に対して納得していないことや、自分の命令がいざというときに全く馬に聞いてもらえないほどの関係でしかなかったと感じました。良い意味でもっと馬にそして自分に厳しく乗っていかなければいけないと思いました。

（2）馬場大会（2課目、3課目）

馬場大会では試合慣れの意味から、2課目と3課目の両方に出場することにしました。初日の2課目では馬に良いペースでリズムの良い運動をさせることに重点を置いてまわりました。比較的节奏良く運動ができたが駆歩発進で反対駆歩がでてしまい、この失敗が結果に

大きく響くことになりました。結果は3位～10位が6点差であり、1項目また1点の大切さを痛感しました。しかし、ペースやリズムは良く、明日につながる馬場が踏めたと思った。そこで運動のメリハリ（特に速歩）と扶助を確実にということを課題とし、3課目に臨みました。準備運動で速歩のつめのばしを自分も馬も納得できるまで繰り返し行ない、とにかく大きく元気良く運動しようと思っていました。かなり前進氣勢のある馬場が踏めましたが、伸長速歩でイレギュラーが入ったりして扶助の荒さに改めて気づきました。しかし、駆歩では3湾曲でのペース、伸長などがよく、駆歩で点数を稼ぐことができ7位入賞という結果を残すことができました。

（3）自馬体（2課目、3課目、4課目）

自馬体までに

- ①正反撞の確立と拳の安定
- ②メリハリのある大きな運動
- ③大勒での運動

を目標としました。特に北日での賞典への出場を考えていたため、自馬体では4課目に出場しようと思い、馬場大会後から大勒での運動を開始しました。最初は大勒を口の中に入れて放棄手綱で歩くのみとし、次に放棄手綱のまま速歩をするなど、大勒での騎乗時間を長くしていきしました。馬も自分も不慣れなためお互い少しずつ慣れていこうという気持ちで焦らずにすこしづつやっていきしました。大勒をつけるのは必ず水勒で運動してほぐれた後ということにし、大勒のつけはずしは下級生に任せず、必ず自分で行なうなど馬とのコミュニケーションにも特に気をつけるようにしました。自馬体までにしっかりとハミを持って運動できるようになりたいと思いましたが、脚と拳のバランスがわからずまともな運動ができない状態で試行錯誤と繰り返す毎日でした。自馬体前の経路回りで見かねた岡田監督がご指導下さり、姿勢、拳の使い方（大勒と小勒の使い分け）等について詳しく教えて頂きました。改めて基本姿勢の大切さを知りました。実際の試合では3課日も大勒を用いて出場しました。この頃は、大勒を使って経路を回るのがやっとという状態で、なんとか経路をたどったという感じに終わってしまいました。大勒を使用することにより拳が強く推進が足りない状態になってしまい、駆歩において馬の腰が内に入ってしまうことがよくありました。賞典を目指す上で一番の課題は駆歩の踏歩変換ができないこと、さらに運動が単調になりアピールできる点がないことだと思いました。

（4）公認大会（3課目、4課目）

公認まで、馬体の調子は良くしっかりと乗り込むことができ、運動量も増えたため飼食が良くなりこの時期に毎年問題となる疝痛の心配もなく、腰や背中の状態も良くばりマイクロウェーブを使用することもなくなりました。

この頃のもっぱらの課題はフライングチェンジが全くできないことでした。斜めに手前を変えた後のフライングチェンジはたまに成功することもありましたが、蛇乗りの中央でのチェンジは全くできませんでした。最初は単純踏歩変換から次第に常歩の歩数を減らしていく、

バーを置いてそれを利用して変換するなど様々試してみましたが大きな効果を上げることはできませんでした。もう一つの課題として、とにかく大きく元気良く運動することを心掛けました。経路中のこまかい運動を完全にこなさなくてはいけないのはもちろんのことですが、それ以上に全体的にうったえるもの（アピールできるもの）を作ることが大切だと考えていました。公認大会では自分なりにある程度納得できる内容でありました。大靱での運動にも人も馬も慣れてきて、馬がバタバタすることも少なくなり、大靱をつけての経路回りがかなりスムーズにできるようになってきました。

踏歩変換は変わらず課題として残りましたが、北日まで残された時間はわずかであり、全体の運動におけるメリハリを第一に考えて練習を行ないました。岡田監督は毎朝馬場に足を運んで下さりご指導して下さいました。上手くいけないことも多く、つつい練習時間が長くなってしまうこともありましたが、馬が得意な駆歩のハーフパスなどの課目を最後に行なうなどして、一日の練習を馬も自分も気持ちよく終われるように心掛けていました。

（５）北日（賞典馬場）

速歩でメリハリのある運動をするということをずっと目標としてきましたが、賞典馬場ではリズムのある気持ちの良い速歩ができました。伸長速歩もスムーズに伸び、速歩でのアピールはある程度できたかなという感じでした。駆歩の踏歩変換はやはりできなかったのですが、練習ですらできなかったことが試合でいきなりできるわけではないというのが正直な乾燥でした。全体的にはなんとかかまとめたというかんじでした。

最後になりましたが、北日に向けて毎日馬場へ足を運びご指導下さった岡田監督はじめ、試合の度にご指導下さった鎌田審判員、いつも応援・ご指導下さった小野さん、宮浦さん、そしていつも北瑛と私を応援して下さいました先輩・後輩の方々、本当にありがとうございました。北瑛に騎乗し、北瑛から学びまた彼に教え、ともにがんばった１シーズン間は本当に楽しかったと思っています。

さて、北瑛は今シーズンを最後に引退し、今は乗馬クラブメインフィールドで初心者の方の練習馬として元気にがんばっています。この冬に会いに行ったところ、寒さのため毛が羊のように伸びて、また太ったためまるでロバのような馬になっていました。ぜひ会いに行ってお会いください。相変らず少し愛想の無い彼ですが、きっと喜んで迎えてくれるはずです。

北駿号

深部 ちさ

冬の間は、とにかく馬が後肢を踏み込んで活発に歩き、しかも自分に注意を向けている状態で運動するように心がけた。そして、練習の中で馬場の様々な課目を実際の競技会のつもりでまわったりして、緊張感を高めるようにした。そのほかにも色々考えることはあったが、そうこうしているうちにシーズンに入り、結局権利を取れずに終わってしまった。競技会での幾つかのネックとなった部分を思い出してみると、自分が精神的に馬をリード出来なかったために失敗したことが多かったように思われる。(勿論これは、技術面を棚に上げたときのはなしである。)馬が躊躇したときの対処が中途半端だったと思う。“馬に意思を伝える”ということは、日頃の練習の中でやってきたことであり、構内を馴致する中でかなり克服出来ていたと思っていたことだった。しかし競技会の土壇場になってみると、練習のときのように自分が馬に対して優位な立場から指示を出すことが出来なかった。肝心なときに馬をリード出来ないのではしょうがなかった。細かいことはさておいて、普段の練習をもっと競技会を想定した緊張感の中で行うべきだった。当たり前のことであり、当然やっているつもりだったことが実は欠けていたのだと思う。そんなことを考えながら、競技会の一場面を思い出す度に悔しくてしょうがない。お世話になった方々には本当に感謝しています。大好きなチアフルをこれからもよろしくお願いします。

医薬品の総合卸売からコンピュータ 販売まで 社会のニーズ にこたえます。



札幌証券取引所上場
医薬品総合卸 IBM コンピュータ販売

ホシ伊藤株式会社

代表取締役会長 伊藤 太郎

代表取締役社長 伊藤 寛志

本社 札幌市中央区南8条西14丁目3番15号 電話 (011) 561-6111

支店 旭川、函館、帯広など、道内各地に31ヶ所の支店を配するネットワーク

エトワール号

松原 貴史

私はエトワールを総合の権利が取れる馬に再調教しようと考えた。それには以前、MCクラスを満点で飛越していたという事実から、馬に飛越する喜びを教え、人馬にリズムが出れば何とかできるのではないかと考えたからだ。この馬の性格や去年の成績から自分なりの調教プランを考えた。

1. 反応の鈍い馬なので推進力を維持し、馬を完全にコントロールすること。
2. 馬の障害に対する恐怖心を取り除くために、リズムのある障害練習を行うこと。
3. 様々な物障害を速歩で飛越し、またスティープルを想定した乾壕、水壕の馴致を行うこと。

大きくこの3つのことを日々の練習の中で達成できるように考えた。

この中で3つめの事項が思うようには行かなかった。それは乾壕に対する馬の恐怖心である。北大の乾壕でもいやがり、自ら飛越するようになっても次の日にまたいやがって反抗することもあり、なかなか満足できる結果が得られなかった。しかし、乾壕以外のスティープルの障害に関してはかなり良くなってきた。後は乾壕だけ何とかすればと考えていた。

もう1つの問題が生じた。1に関することだが、とにかく反応の鈍い馬なので、かなり推進できる人間でないとい何もできない。つまり、誰が乗ってもオートマチックな馬ではないため、全てのことを自分一人でしなければならなかった。

結果的には私が乗ればJ級までの障害は無反抗で飛越できたが、乾壕に関しては最後まで上達せず、全日学の権利を取ることができなかった。エトワールに関しては結果を残すことができなかったが、この経験から馬を調教することの手がかりを自分ではつかんだと思う。この経験を新馬調教に生かしていきたいと思う。

あなたと御家族の健康をお守りする

わかば薬局

本	店	地下鉄北18条駅前 札幌市北区北17条西3丁目 TEL716-4233
エ	ル	ム店 札幌市北区北17条西4丁目 TEL737-7951
メ	ディ	カル18 札幌市北区北18条西3丁目 TEL726-0533

明日檜号

松原 貴史

最終学年である今年、絶対に全日学に団体出場しよう……絶対に。その目標の為には、ペはそのメンバーとして必要であり、昨年同様にやってやろうと心に誓った。自分自身この馬に乗り始めて2年目となり、ペの性格・特徴を全てつかんでいて、調教方針も確かなものがあった。

春シーズンに入り、ペは高齢であったが、大した怪我もせず元気一杯であった。また、試合も絞って出場し、何の不安もなく結果を残してきた。さていよいよ北日学となった。

今年の北日学の開催は北里大で輸送にかなりの不安があったが、これも無事に終えた。しかし、今年の夏は非常に暑く、背森も例外ではなかった。高齢のペにとって、かなり大変な暑さとなり、ペと一緒に頑張ろう、もう少しだからと試合に臨んだ。結果は権利を取れとれなかった。

絶対に全日学に団体出場しようと部員を引っ張ってきたのに、自分が権利を取ることができなくて、本当に部員には申し訳なく思っている。憶病者で寂しがり屋のペ。本当に自分は良い思いをさせてもらった。

お前は日本一だ。全日学でも優勝できる。俺のせいだ。ゴメン。

……………ありがとう一生忘れないよ！……………

チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市豊平区真栄123番地

TEL 881-0470

ファストバロン号

谷地 織

前年度までOBの横幕兄に調教をお願いしていたが、北日から帰ってすぐに横幕兄からの引き継ぎを兼ね、兄の指導の下、バロンに騎乗を始めた。前年度のバロンは、半澤杯、自馬体ではゴールを切ったが、公認大会で反抗による失権が重なり、北日学には出場しなかった。五年前に入厩して以来、ボルトが入った右前肢の調子如何で馬休が続くことが多く、その度に順調に進んでいた調教を一からやり直さなければならなかった。上級生や横幕兄から右前肢のことはよく聞いていたので、他の馬でも勿論そうだが、バロンの場合特に肢の状態を維持することは調教を進める上での大前提であった。幸い今年は五年目でもあり、日々のケアを徹底したため、運動超過で熱をもつことは度々あったが、長期場休にするほどひどい延焼を起こすことはなかった。

バロンの調教においてまず目標としたことは、障害の経路を同じペースで走行することであった。バロンはとにかく力があり、経路走行中にハミに引っかけて走り、その後の誘導が困難になる。練習ではまずペースづくりとして、3～5個のコンビネーション障害を多く行い、放棄手綱での飛越を繰り返した。最後のオクサー飛越後も、手綱を大きく引かず、人のバランスや声、口笛で止まるようにした。人が少しでもバランスを崩すとそれが馬に伝わり、ペースが早くなってしまう。放棄手綱でコンビネーションは私のバランス維持と随伴の上達にもつながった。また、この際の‘ゆっくり’というのはあくまでも前進氣勢を保った上での‘ゆっくり’である。この辺の感覚を当時私はうまくつかめず、後でいろいろな方に助言を頂いた。いくら同じペースで走行できたとしても、後駆が踏み込んでいなかったり、ある程度の前進氣勢が保てていなければ、二回走行レベルの高い障害の経路走行はできない。運動を行う際には後駆の踏み込みは絶体であり、ある程度運動をこなして自然に踏み込んでくるのではなく、始めから大きく踏み込ませるような、馬体全体を使った運動をしなければならないのである。私が、

騎乗して馬の後肢から人の体に突き上げるような踏み込みの感覚が分かったのは、だいぶ後になってからだった。

ハミに引っかかって走るのは、飛越から着地にかけてハミがバロンの口にきつく当たっていることが一因であった。この問題には手綱を引っ張らないようにし、馬の口にハミを当てないことが要求された。これは当たり前のことなのだが、その頃の私の技術では、飛越前から着地までハミの張力を一定にして飛越することはできなかった。そこで手綱を持った単一障害の飛越の練習では、飛越時に大袈裟なくらい随伴をとるように心がけ、絶体にハミを口にあてないようにした。どれも当然行わなければならないことであり、このような基本的なことを着実にやっていくうちに、経路走行でも練習と同じペースで走行することが可能になった。また、バロンは右肢に起因することもあるのだろうか、馬体が非常に硬く、ハミ受けも良いとは言えなかった。障害を飛越する際に馬体を柔軟に使えるければ落下や拒止につながり、馬の腰や肢にも負担がかかる。前後左右の柔軟を強化するために、まず準備運動で

は放棄手綱で馬体を大きく使わせて大きく踏み込ませることを行った。しかし放棄手綱で走らせてもバロンはハミを感じず、ハミをとって頭頸を伸展させることはしなかった。この点では、北皇子の調教報告（№37 高村姉）を参考にし、放棄手綱でハミをとらせる練習を行った。さらに、肢に負担がかからない程度に正反撞でフラットワークを行い、横運動や歩度の伸長・収縮を積極的に行った。バロンが頸を柔らかく動かし、ハミがフツと軽くなる瞬間を目指してハミ受けの調教を行った。（私がハミ受けの感覚がある程度正確に分かるようになったのはつい最近のことなのだが……）

横幕兄にご指導頂きながら、秋の間はペースづくりのためにジムカーナにも出場し、小障害程度の経路走行は私が騎乗しても一定のペースで回れるようになった。冬の間は外乗でバロンとの関係づくりを目指した。障害物の馴致のためにいろいろなものをまたがせ、また学外にも出かけた。前年までの間、外乗で下級生が乗ると振り落として馬場に戻ってきた、というような話も聞いていたバロンだが、馬場での練習でも下級生を乗せられるくらいまで落ち着いていた。私が騎乗を始めて最初の頃は、人間不信であったのか、手入れの時など蹴る、噛むがひどかった。しかし、ダメな時はダメ、良い時はおもいきり啓めるという事をしていくうちに、手入れもおとなしくなった。人間の気持が馬にこんなにも伝わるものなのか、と驚かされた。性格的に落ち着いてくると、騎乗している際も従順になったように思う。普段からの馬と人とのコミュニケーションの大切さを、バロンから学んだ。

雪が解けて、半澤杯前の障害練習では、先に目標として述べたようなゆっくりと落ち着いた飛越ができるようになった。しかしいざ経路を回るとなると、どうしても一つの障害を飛ぶごとに、ハミにかかった。さらに障害間で急に gone て立ち止まったりもした。ハミにかかって走るのは、回転の際に私の拳がまだまだ粗雑であるのと、障害飛越後のリカバリー、つまり次の障害へ向かうための体制の

立て直しが遅いことが原因であった。ゆっくり、ゆっくり、飛越までは手綱をきちんと張って体を起こし、大きめに随伴をとる。そして何よりもまず、私自身が落ち着いて、一番障害に向かうまでにバロンの気を落ち着かせてやれる余裕が必要だった。

半澤杯では gone て反抗されたが、自馬体会、公認大会を試合をこなすにつれてだいぶ折り合いがつき、いい経路走行ができるようになった。さらに、馬体全体を使った運動を目指していたことと、少しでも多くバロンを試合の場の雰囲気慣らそうという思いから、馬場大会、自馬体会と馬場馬術三課目に出場した。初めての馬場の試合であったが、馬場埒の中で走り回ることもなく、意外に落ち着いて回ることができた。準備運動で、このとき初めて、ハミを柔らかく持って後軀を踏み込ませ、馬体全体を使った馬の動きを知ることができた。馬が落ち着いた状態でのボルテージの上げ方、それに伴う扶助への反応の増大、そして自分の体に伝わる後軀の大きな動きなどを体で感じ、馬場の試合への出場は自分にとってもバロンにとっても得るものが大きかった。全て、これまでになかったほどじっくりと乗りこんだ末、得た感覚であった。普段の運動でバロンへの要求が甘く、まだまだ体全体を使わせる運動ができていないことを痛感した。そしてもう一つ、自馬体会を機に、ハミをそれまで使っていたペソアビットからジャーマンのノーマルな水勒に変えた。横幕兄の頃から、バロンが力任せに突っ走るのを抑えるために、普通のハミよりきついペソアを使用していた。しかし、

かえってペソアはきつく当たりすぎて、バロンの飛越する気を削ぎ、それが走行中の‘ごね’にもつながっていたのかもしれない。度々練習でご指導を頂いていた鷺田さんや、馬場大会のクリニックで村上先生にも同様のご指摘を受け、ハミを変えることになった。バロンの気持を考えてやれば当たり前のことであった。ただでさえ技術が未熟な上に口をギリギリやられたのでは飛びたくもなくなるだろう。話はそれるが、よく鷺田さんから伺ったお話がある。‘もっと馬の気持を考えてやれ。自分が馬だったら、どうしてもらったら気持よく飛べるか考えてみろ。もっと楽に飛ばせてやれ。飛ぶのは馬なんだから、10のうち6～7自分の言うことを聞いてもらったら、3～4は馬の言っていることに耳を傾けろ。’なるほど、楽に飛ばせるだけの技術を私は持ち合わせていなかったが、常にバロンが何を考えているのか、身になって考えてやるくらいのことはできる。馬術にはこの気持が必要なのだと思う。馬は他の乗り物と違って感情を持つ。馬がどう感じているかも考えずに下手くそがまたがったところで、飛んでくれるわけがない。技術向上を目指すあまり馬に耳を傾けなくなってしまっただけは、本末転倒であろう。

話は戻るが、こうして自馬大会の後ハミを変え、バロンと折り合いもつくようになり、全日学への権利も夢ではないところまで調子が上がってきた。ところが北日学三週間ほど前の障害練習で新しい障害を試みたところ、私の対処の悪さで何回か拒止され、それ以来障害に向かっていく気を示さなくなった。特に右手前の回転を嫌い、ノーザンホースパークで行った北日学へ向けての経路回りでも、右回転の障害に向かわなくなった。結局初の北日学二回走行では、8番まで飛ばせるのがやっとだった。申し訳ない、ごめん、バロン。二回走行のゴールを切ることができなかった。北日学の直前にこのような不調に陥ったのは、バロンと自分との関係がまだまだ不完全であったこと、そして自分ではできあがっていると思っていた状態が、まだまだ完成してはいなかったことに起因する。バロンが無理をせず気持ち良く飛越する状態には至っていなかった。そして、そこでごねたバロンを飛ばせるだけの技術も気持も足りなかったのだ。

自分の未熟さに言い訳はできない。馬をフォローできるだけの技術を、馬の気持を汲み取ってやれるだけの心を磨かなければならない。横幕兄から引き継いだ後、一年間でバロンはかなり成長した。障害を飛越する能力は抜群である。バロンの力を最大限に引き出してやれるように、さらなる練習が必要である。これからは、この一年間に成し遂げたことの上に練習を組み立てていく。頭頸の伸展から後躯の踏み込み、そこから馬体を柔軟に使わせるような運動を根底に、ハミ受け、基本的な馬場運動、障害飛越。馬体を柔軟に使えることができさえすれば、飛越も楽になり、障害前のごねもなくなるだろう。人間が自身を持って騎乗することである。ゴールも切れなかったのに偉そうなことを書き連ねて申し訳ないが、私が一年間バロンと共にやってきたことが来年再来年につながることを願っている。

最後に、北日学出場を許可して下さった上級生に感謝いたします。数々の御助言を下さいました齊藤先生、岡田監督、市川部長をはじめ、宮浦さん、鷺田さん身近で御指導下さった横幕兄、そしてOBの皆様、この場を借りて御礼申し上げます。

北遥号

杉野 正之

二年の一月から北遥号のチーフとして騎乗させていただくことになり、三年のシーズンで自分と下級生の練習を主として馬場の試合にも出場させていただきましたが、練習、試合ともにあまり良い結果がでせず、今後の部馬の構成を三年目で検討した結果、彼を離脱させることになりました。幸いにも、試合を見てくださった百瀬さんや新矢先生に歩様の良さなどをきにいつただけ、モモセファームで引き取っていただけることになりました。環境の良いモモセファームで大切に扱っていただき、日々調教を進めて下さっていると聞き、部員一同カンシャンティマス。モモセファームの関係者の方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

一年間の騎乗を振り返ってみると、この一年間、部内での自分と馬の立場ばかりを考えていた様に思えます。そういうものは本来、毎日の積み重ねの上に自然についてくるもので、頭を抱えて考え込むようなものではなかつたと今更ながらに思います。特にこれから馬を持つ下級生には、僕のこの失敗を良く考えて欲しい。人間が不安を感じて落ち込んでいる時馬はその人間よりずっと繊細で小さな心を痛め続けているということを忘れないで下さい。

最後になりますが、一年間、スマートで愛らし彼と不恰好な僕とのミススマチコンビを見守って下さった諸先輩方と部員のみんなに心からお礼を申し上げます。また、期待を大きく裏切ってしまったこととお詫びします。特に、彼のチーフとして抜擢して下さいだった松原前主将をはじめ四年目の方々には、本当に申しわけないと思っています。問題ばかり起こしてすいませんでした。

有限 菅原写真商会
会社

パスポート写真
カメラ・カラープリント
3分間写真
各種証明写真

北22条西4丁目 ☎ 716-2662



北凌号

西村 雅夫

性格やこれまでの経過については、前号の横山さんの調教報告を読んでもらえば分かると思う。素直でおとなしく、悪癖も特にないが（フレイメンを癖とするかはともかく）、その反面非常に臆病で、驚くと周囲や騎手のことが頭から消えてしまったかのように暴走することもある。この性格には最後まで悩まされることになるのだが、そのあたりも含め一年を振り返っていこうと思う。

自分が騎乗を開始したのは9月下旬で、3月までは横山さんの下で運動を行った。ここで繰り返し教えられたことが、その後も自分の騎乗の基本となった。以下のような点である。

（主に準備運動で心掛けること）

- ① 放棄手綱で、落ち着いた一定のペースを守り、腰を張り前にのめらないこと
回転では内側になだれこまないように、バランスバックと左右の鍛にしっかり 乗ることを意識する。
- ② 腰掛けないように、むしろ腰は鞍に付けることなくやや浮かせた2 pointで 安定して乗れるようにする。そのために踵を柔軟にして、重心が真っ直ぐ降り るように意識する。
- ③ 移行は、駆歩→速歩→常歩と腰は鞍に付けず、腰の張りとの起こしで減却 を伝える。拳先行にならないように注意する。
- ④ 手綱を持った際も、ハミを押さえつけないように意識的に拳を送っていく。最初はコンタクトがどうのこうのの前に、肘と拳を柔らかく、ハミを口に当て ないことを第一に考える。

書いてみると当たり前のことであるが、情けないことにこの頃の自分は上に挙げたことですら満足にできなかった。馬を邪魔しない騎乗を意識したこともなかった。そんな状態で、馬にハミ受けなどあれこれ要求し、その一方でバランスは悪く、上体は前後左右にフラフラ、肘や拳もガチガチで馬の口を引っ張り回していたのだから始末におえない。横山さんも見かねて基本的なことのみ徹底して注意してくれたのだろう。結果的に2 pointで徹底して乗ることで下半身が安定し、上体の余分な力も抜けてきたように思う。それまで騎座で逆に馬の動きを妨げていたことを実感した。また放棄手綱で運動することで、馬の大きな動きとリズムを体で覚えることができ、馬場運動でもそのイメージで乗ることができるようになった。上に挙げたことは、僕が指導した下級生にも重点的に言ってきたので覚えのある人もいるかもしれない。

結局のところ、「馬体の中央に真っ直ぐに乗っていられること」ができてはじめて前後左右のバランスの変化を馬に伝えられるのだし、「馬の口に当てずに拳を譲ってやること」ができて初めて「手綱を控えること」ができるのだろう。それを理解したのは、レジェンドに騎乗してからもしばらくたってからだった。

冬の間はどうしても練習がうまくいかなかった。足場が悪かったために馬が集中しなかったこともあるが、OBの下で運動を行う中で、自分自身が受け身になっていたことが一番の原因だったように思う。だから練習形態にもさしたる方針のないまま、行き当たりばったりの練習に終始してしまい、その日ごとの馬の調子に左右されることが続く。また自分の姿勢を直すこと、馬に扶助を伝えること、馬を落ち着かせる事を一度に解決しようとして、すべてが中途半端になっていた。馬に（特に新馬に）扶助を伝える場合、とにかくシンプルでわかりやすい扶助を与えてやるのが、段階的に調教を行う上では必要だと思う。ところが自分の場合、バランスの崩れや堅い拳など扶助を邪魔する余計な要素が多く、馬を混乱させるばかりだったのではないだろうか。春になり馬場の土も見えてくると、馬も落ち着いて運動ができるようになった。そうしてやっと練習方針にも自分の頭が向くようになった。まず自分が安定して馬の上で乗っていられるようになってから、馬にシンプルに扶助を伝えていこう。極めて低レベルだが方針はこうしてやっと定まったわけである。

横山さんに指導されたことを心掛けた上での、自分なりの練習方法は以下の通りである。レジェンドは扶助に敏感で前進氣勢があり、後躯の踏み込みがいい。その長所を生かした、全身を大きく動かす準備運動を行おうと考えた。

朝、馬場に出して最初は必ず自分が乗るようにした。とりあえずこれでその日の反応や落ち着きの違い程度なら知ることができる。馬の様子を見ながら放棄手綱で常歩→速歩→駆歩と首を伸展させながら馬場全体を使って運動する。脚に対して素直に反応し、程良い内方姿勢がとれるようにする。またリズムも速すぎないように心掛ける。移行では無理せず口笛や声などの副扶助を利用するようにした。これを繰り返すことで騎手は焦って無理な扶助を使うことなく、馬は落ち着いて騎手に集中することを理解してくれるようになってきた。手綱を持った際も首が楽に使えてないと感じれば、一度放棄手綱にした後、再び徐々に手綱を取っていくことを繰り返した。

障害練習はコンビネーション飛越を中心に行った。初めは他馬と同じような間歩で飛んでいたのだが、どうも大跳びの彼にとっては狭いようだったので、やや広めの間歩（踏切2.7m-3.0m-3.5m-6.0m-6.5m）にすることで、徐々に体を使って飛べるようになってきた。フラットな飛越にはならなかったため、再び狭めることはなかった。ビール箱やレンガなどを入れた場合も、当初は物見することがあったが、よほど奇抜な物でなければ平気でこなせるようになった。

こうした障害練習も、飛越後は必ず餌や愛撫を与えることを徹底するようにした。その都度褒めてやることで馬も障害に対する悪い先入観を持たずに、飛越することを覚えてくれたのではないと思う。

しかしここまで書いてきたのはあくまでもレジェンドが落ち着いた状態である場合に限られる。冒頭でも触れたが、物音や人の動きを見ることが馬が興奮してしまい、それまでの練習を一からやり直さなければならないこともあったし、障害を肢で引っ掛けて驚いて走り回ることもあった。こういう時、自分がまず落ち着いて馬を安心させてやらなければならないが、どうしても焦ってしまい、結果その日は何もできないことも多かった。実際のところ、レジェンドの調教においては精神面の安定に多くの時間が注がれたといえるかもしれない。

馬に要求するレベルを下げ、落ち着いてからやり直す。わかっているがそれを常に実行することは難しい。騎手が平常心で取り組むことの大切さを痛感した。

こうして運動していく中で、レジェンドの特徴と問題点も見えてきた。

彼は左手前が得意である。右手前は内方姿勢もとりにくく、障害の着地もほとんどが左手前である。気付いてからは意識して左右のバランスの偏り無しに騎乗しようと試みたが変化はない。自分でも左手前の方が乗りやすいと感じるところがあって、それが影響してしまったのかもしれない。発進は右でも出せるし、速歩を含めた踏歩変換も行えるが、障害の経路走行では左駆歩のまま右回転してしまい、リズムが崩れ、次の障害にも影響してしまう。フライングチェンジも考えたが教えられず、右手前が苦手のまま最後まで進んでしまった。

また、レジェンドはのめってくるころがあったので気を使った。口を開き、ハミにのっかかってくるため、馬のバランスが前軀に偏り、減却も効かない。自分の拳が堅く、推進と人の体の起こしが足らないために、馬も体が起きてこないのだが、どうしてもコンタクトがきつくなり、馬との引っ張り合いになってしまう。減却が効かないことが、運動を落ち着いて行えない原因の一つになっていた。対策として運動を細かく区切ってやり、合間には手綱を投げ、ハミの緊張から解放してやるようにしたが、これは運動を落ち着かせて行うためであり、のめってくるころは改善できなかった。

馴致は主に外乗で行った。一頭では何かとビビり物見をするが、人や他の馬を先に行かせると大抵は素直に応じてくれる。壕や水たまりも曳いて見せてやり、大丈夫と理解すれば、次には簡単に通過し、翌日は「行け」と言う前に自ら進むこともあるくらいである。おかげで様々な場所を試すことができた。ここでもまず馬を納得させること、進めばすぐ褒めることを繰り返し、信頼関係を作っていくことを第一に考えた。馬相互が及ぼす影響は強い。特に野外を馴致する場合、経験のある馬（北銀とか北玲とか）を一緒に行かせ、後につけることが一番有効かつ、さほど技術を要求しない方法だと思う。そしてそこで経験を積んだ馬がまた次の新馬に教えていけばよいのだから。

場所の馴致は、主に、ほとんどの競技会が行なわれ、野外コースのあるノーザンホースパークにいった。思ったより新しい場所では興奮を示さない。それよりもやはり競技会の雰囲気は弱いようだ。競争馬でも不遜はおとなしいのにレースになると途端にいれこみ、実力を発揮できない馬も多いようだが、レジェンドも昔からそうだったのかもしれない。

彼にとって、牛などの動物もまた天敵であると言える。よく獣医学部に外乗や曳き馬に行ったのだが、体重測定の際、歩かの馬が嫌がるのを見てからは、怖くなったのか暴れてでも引き返そうとするので手を焼いた。少々僕が意識しすぎたのが逆効果だったかもしれない。このことに限らず、馬は周囲の馬や人の影響を受けやすい。騎乗者、管理者として心掛けて行くべきだと思う。

《競技会》

半沢杯（北大）

馬場第3課目と新人新馬障害競技に出場。シーズン最初ということもあってか、北大であるのにもかかわらず、準備馬場では全く落ち着きがなかった。3課目では2鞍目の谷地の時には落ち着いて競技もできたが、障害では準備馬場での時間が短く、また隣で障害を飛ぶ馬に驚き、走り回り、障害に向かえば無茶苦茶な踏切でバカッ飛びするわ、自分はそれについていけないわの散々な状態の出番。競技でも1番障害からかかってしまい、次の障害に向けるのがやっとで、最終障害Bで落下。見ていた人には、初めてにしてはよくやったと言ってもらえたが、実際は走る馬にしがみついていただけであり、恥ずかしい限りだった。

馬場大会（ノーザンホースパーク）

ノーザンホースパークでの初めての試合。僕の2・3課目の後、鶴見にも3課目に出てもらう。2課目は半沢杯の反省もあり、時間をとってウッドチップ馬場を歩かせた後に落ち着いて準備運動を行うことができたが、審判台を見てしまい点数は伸びなかった。3課目では準備運動中、馬車の音と姿に驚き、常歩もできないほど集中を欠いてしまった。

道自馬体（ノーザンホースパーク）

特定L級（100cm以下）障害に出場する予定だったが、経路回りで走られ、出場を断念した。馬場の2・3課目に出場。雰囲気にも慣れ、落ち着いて準備運動もこなせたが、ハミ受け、真直性などを注意された。一方で歩様や推進気勢は評価されているので、この点は大切にしていかなければならないと感じた。

チーフに決まった時点で、目標を北日学総合競技出場と決めていた。しかしこれまでの状態では競技会どころか経路回りでもおぼつかない。練習では落ち着いて障害も飛ぶし、野外の馴致も順調に進んでいる。現時点でレジェンドに必要なのは試合での経験と結果であるが、今の自分の技術では準備運動も落ち着いて行えない。ここはレジェンドに経験を積ませるためにもある程度技術や経験のある人に試合で結果を残してもらうことが必要なのではないか。この頃から4年目でもこのような話合いがあり、公認からは松原にも試合に出てもらったことになった。

またこの時期に畜大に馴致に行った。ノーザンホースパークだけでなく畜大の野外コースにも慣れておこうと考えたためである。最初、松原が乗って野外を走るがやはり初めての障害に物見をする。しかし自分が乗り代わると、障害前でよれて飛んだという1鞍目とは違って変わって自ら障害に向かっていく感じである。改めてこの馬の馴致能力に驚いた。ところが僕の経路ミスから馬の集中力が無くなり、後半の障害で無理な向かい方から当然のごとく止まられてしまった。全て自分の体力不足が招いたことだった。ただ馬に関しては、耐久に

対して自信をつけることができたのは確かだった。

N. H. P カップ

公認大会（ノーザンホースパーク）

公認には松原とともに特定し級（新馬）に出場。前日にN. H. P カップがあり、この新馬競技にも2鞍使う。2鞍目に自分が乗るが、準備馬場でしっかり乗り込まれているために、本場馬でも全く落ち着いており、障害へ向かっていくやる気を感じた。特にN. H. P カップでは2人とも予想もしていなかったジャンプオフ出場。ジャンプオフでも松原が3落下の後、僕が障害減点なしで3位入賞をすることができた。公認は2人とも2落下。僕の時には、回転で口を引っ張ってしまったことから馬を走らせてしまい、後半飛びが難になり前肢で引っかけた。まだまだ安定した走行とはいえず、低いレベルの競技でのことである。しかし何よりレジェンドで初めてちゃんとした成績を残せたことが嬉しかった。

北日学（北里大）

総合にのみエントリー。そのため入厩から競技日まで日があり、馬場で何日も練習ができたのは好都合だった。牛のパドックが馬場に隣接することが不安だったが、3日目ぐらいから気にしなくなってくれた。北大の馬達と一緒に運動できたことで初めての北里大でも違和感なくいられたようだ。

調教審査。準備馬場が狭く、横を他大学の馬が走り抜けるが思ったより動揺せず、脚反応も程良い。この調子なら案外点数も伸びるんじゃないか。本場馬入場前はこれくらい甘い考えだった。ところが入場前に審判台を見て真横にすっ飛び、あわや入馬転。入場してからも敬礼後、5m位後退し、もうこの時にはどこで審判にアピールしようなどとの作戦は完全に頭から消え去っていた。何とか審判台に近付けることはできたものの、もう図形がどうのハミ受けがこうのなどという状態ではなくなっている。しかし速歩区間を終え、駆歩区間に入る頃から落ち着きも出て、集中力が増す。図形、ポイントも正確、馬も全身を大きく使って動いてくれる。駆歩区間だけなら今まででも一番の出来だったかもしれない。しかし気が緩み、最後の最後で経路違反をしてしまった。結果はやはり下から数えた方が早かったが、周囲とも差はなく、減点が無ければ順位も上がっていた。集中を保てなかった自分が情けなかった。

耐久。しかしここでもまた鞭を馬付に渡したままスタートするという失態を犯す。救いようのない大馬鹿野郎である。とにかく拍車と声で気合を入れ前に出す。1・2番は慎重に向かい通過。しかし3番スキージャンプを前に全く進まなくなった。後退の挙句、林の中の有刺鉄線に突っ込む。長い格闘の末2反抗で通過。するとここから馬にやる気がみなぎってきた。自分の気合に呼応して次々と障害に向かっていく。125cmのヒューム管も全くよれない。しかし乾壕ダブルで反抗。乾壕トリプルで3反抗、ここで失権となってしまった。失権後もその後の障害を飛んでいく。斜め木柵を物見し、飛ばせられなかったが、それ以外はほぼ問

題なく通過した。最終障害バンケット。回転で向けられず2反抗。思いきりよれてゴールするが、もう自分には真っ直ぐ走らせるだけの体力がなかった。

失権したが馬は最後まで飛んでくれた。足を引っ張ったのは自分の判断ミスと体力不足。馴致の時点でそのことは分かっていたのに克服できなかった。馬の様子を見ると、有刺鉄線で引っ付けたのか傷だらけで跛行もしている。蹄鉄もなくなっていた。そんな馬を見るうちに悔しさが込み上げてきた。自分が情けなかった。

余力。前日の跛行も収まり、権利とは関係ないが出場を決断する。疲れているのか準備馬場でもおとなしい。しかし本馬場に入ると2・3番で逃避。何とか飛ばすものの6番で3反抗をされてしまった。

馬の将来を考えればその後の新人新馬に出るべきだったのかもしれない。翌日もう一度ステイブルに行っておくべきだとも言われた。ケガも大したものではなく、やっておくべきだったと今は考えているが、その時は脱力感で何もできなかった。

幸いレジェンドはその後素直さを失わず、障害も特に問題なく飛んでいる。あいかわらずガキで臆病者だが、何とか北大の看板馬となってほしいものである。ひいき目ではなく能力は素晴らしいものを持っていると思うし、馬場、野外、障害の全てにおいて可能性を持つという意味では北大のどの馬にも引けをとらないとも思っている。そんな馬に1年間乗せてもらった自分は本当に恵まれていた。自分の力では叶わなかったが、いつか全日学で活躍してくれる日が楽しみである。

蛇足になるかもしれないが、今感じていることをもう少し書いてみる。

チーフになるにあたって考えることは人により様々かもしれないが、自分の場合、基本を徹底して繰り返すことを中心にして考えた。と言うよりも基本的なことしかできなかったという方が正しいかもしれないが、やり方はそれで良かったと思っている。チーフになるとどうしても馬の頭の位置が気になり、拳でいじってみたり、時には道具を使ったりすることが誰しもあると思う。確かにハミ受けも重要であるが、気にするあまり、馬の前進氣勢やリズムを犠牲にしてしまったのでは意味がない。それ以上に普段どれだけ丁寧に、そして基本に忠実に乗っているかで結果も変わってくるのではないだろうか。例えば発進は一步目から奇麗に出せるかとか、障害には常に真っ直ぐ向かっているかといった注意すればできることを案外いい加減に行っていることがあると思う。そういったことを考えて乗っていくだけでも、冬の間の自分のような、何をしたら良いか分からない状態よりずっとましである。自分の場合も、そう考えて乗り始めてからも常に丁寧に乗っていたとは言い難い。最初は丁寧に乗ろうと思っているのだが集中して5分間乗り続けることもなかなかできなかった。このように基本を徹底して乗るといっても結構難しいことであるが、これから馬に乗って行くにあたって何をしたら良いか分からないとか、調教や騎乗に行き詰まってしまったとかいう時、一度基本に戻ってみることも必要なのではないかと思う。それによって自分の馬について今まで気付かなかったことが見えてくるかもしれないし、少なくともただ運動をこなしているよりは良いのではないだろうか。

最後になりましたが、多くの人の助言と協力でここまで自分はやってこれたようなもので

す。ありがとうございました。そしてレジェンド。君のように素直で、おとなしくて、何考えてんのか分からない時があって、時々乗っている奴と一緒に頭の中が真っ白になってしまうような馬を僕は知らないが、一年間なんやかんや言いながらも楽しくやって行けたのは君のおかげだと思っているよ。

さてこのあたりで調教報告も終りにします。長々とここまで読んでくださった方、どうもお疲れさまでした。ひと休みして、次の文章に進んで下さい。

うちはカレー屋じゃない

VOYAGE !!!
SPICES & GRILL
N21 W5 758-2500
DO YOU KNOW THIS GRILL
DO YOU KNOW OUR SPICES !!!
NOW ! SPECIALS!!!

カレーアーユルヴェーダー YAKUZEN	
▽ チキン&ベジタブル	650円
カレーアンダマンマソヒスティックスパイス	
▽ チキン&ベジタブル	650円
▽ チキン&山菜	680円
▽ 納豆&山菜	650円

北鷲号

鶴見 直大

・北鷲号について

北鷲号は本城さんの紹介により1992年6月26日、札幌競馬場より入厩した。この時僕はまだ一年で自分達が扱える馬ではなかったため印象はうすかったが、よく鳴いていたのとヒーンといって跳ねていたのを覚えている。西村兄が馬体管理責任者になった頃から印象が強くなり、同じ頃入厩したハギノレジェンドに比べチャカチャカといつも落ち着きがなく、前に立つと耳を伏せて怒り、また、すぐにまえがきを覚えて馬房はまるで田んぼのようだった。西村兄が人気をだそうと努力しているのにもかかわらず、鷲の方はまるで変わらなかった。一年生がさわれるようになったのは12月頃からで、その時のサブが曳き馬で引きずられたり雪山に突っこんだりしたいへんで、僕も初めて曳いた時は二度引きずられ、一度蹴られて五度踏まれたのを良く覚えている。

・調教に関して

一年間乗ってきたが、実際調教とは程遠いものであった。新馬の調教においては自分が馬に対して優位に立つべきであるのにもかかわらず、毎日毎日馬に、またOBの方々から教えてもらう一方で、馬にもものを教えるなどという事は全くできなかった。自分の技術のなさを今さらながら感じている。この一年間の騎乗で自分が犯した失敗、また自分が考えてきた事、自分が得たものを後輩に残そうと思う。成功例と同様、失敗例も何かの役に立つのではないかと思う。またOBの方々には、この報告にある問題点を指摘していただきたいと思っている。

自分が初めて北鷲に乗ったのは5月13日だがその時は自分が騎乗していくなどとは思ってもいなかった。自分の出来るだけの事をしようとしたが、駆歩も出せず輪乗りも描けずでショックだった。本格的に祝前兄のもとで騎乗し始めたのが10月の後半だった。そのとき自分には90-100-130のオクサーを飛んでいる鷲の姿が魅力的で、障害を怖がって飛んでいるようだが、それさえ取り除けば絶対良い馬になる！この馬で頑張ろうと思った。

まずフラットワークにおいて、全然にっていないかもしれないが祝前兄の真似から入ろうとした。兄の姿勢、拳のおくり、脚の使い方、怒り方までである。この時点でもう失敗を犯していたのだが、それは自分が真似ていたのは外面ばかりであり、馬のことを無視したものだったという事である。祝前兄とは騎座など馬に対する作用も違うのに、同じくらい強く拳を握り首の形だけ作ってそれに見合うだけの推進もできず、今考えると良く馬も我慢してくれていたなと思う。最近やっとと思う事であるがハミ受けはやはりセオリ一通り、両拳とも同じ接触を保ったまま推進していくことで、“拳はここにあるからこれを受けなさい”方式が良いと思う。また

フラットワークにおける最大の失敗は、フラットワークと障害飛越を完全に別のものと考えていたと言うことである。「障害を恐れなくなりさえすれば」という考えが強過ぎて

フラットワークは二の次と考えてしまっていたのである。“フラットワークがある程度こなせなければ障害飛越はできない”というどんな馬術書にでも書いてある鉄則を全く考えていなかった。そしてこの事には驚の雛威が決まるまで気づかなかった。「経路を回ってみたらどうだ。」とか「1課目からでも試合に出して行くべきだ。」という回りからのアドバイスに、「小障でもいいから経路を回れるようになってからだ。」と言って耳をかそうとしなかった。今になってやっと分かる“日頃のフラットワークがいかに大切か”ということ。後輩には自分と同じ間違いをしないようにして欲しい。

・障害飛越に関して

ハミを受けさせてゆっくりと飛ばせてやることが自分にはできず、馬はあせってぶっ飛んでしまっただけ。結局、調教途中で横木一本からやり直すことになった。この時二つの指摘をされ、それを課題とした。一つは、常歩でも速歩でも駆歩でも放棄手綱でゆっくりした一定のリズムを保つこと。一つは、障害を恐れる馬はメンタル面から取組んでいかなければならないということ。今思えば当然の事であり、こんな事も分かっていなかった自分が恥ずかしく思えてならない。その他にも、・人間の考え方を柔軟にするべき。一つの方法に固執せずに、うまく行かない時は色々な方法を考えること。・障害飛越では絶対にハミを引っ張らないこと。・運動は必ず馬が気持ちのいい状態で終わること。うまくいかなかった場合でも、運動（障害）のレベルを下げ、最後はおもいきりほめて終わること。・キャバレッティ、調馬索を継続して行うこと。・馬が飽きるまでやらないこと。（とくに驚の場合、始めのうちは良くてもだんだんとまづくなっていくことが多かった。）等の指摘を受けた。結局自分が驚に騎乗して満足にできたものは一つもなかった。特に継続に関して言えば、「すこしでも良くなったら次へ」という焦りがあり全くだめだった。もっと余裕を持って調教を行うべきだったと思う。

馬に対するメンタル面での取組として、自分は馬に人一倍接しようとした。学校の空き時間を見つけては曳き馬にいき、いつも驚と一緒にいるようにした。バイトも学校に行けないから辛いのではなく、曳き馬に行けないから辛いという感じだった。自分だけではなく、サブに付いた後輩にもよく三時頃から曳き馬にいてもらった。本当にありがとう。おかげで独りよがりかもしれないが馬の気持ちが良く分かるようになったと思う。驚が何をしたいのか、何を怖がるのかという事などが分かるようになった。自分が行く所にはどこでも平気でついてくるようにもなった。ただ、ここで築いた信頼関係を騎乗に結び付ける事が自分にはできなかった。騎乗しているときは声もかけず、ほめもせずずっと黙って乗っていたように思う。騎乗時においても馬の側に立って馬がどうして欲しいのかを感じてやり、もっと謙虚に乗っていくべきだったとつくづく感じている

最後に、自分を見失い大変失礼をしたにもかかわらず最後まで見てくださった岡田顧問をはじめ、驚田潤弥さん、横山兄などの諸先輩方に深く感謝します。そして何より、結局最後まで一度も暗れ舞台に立たせてあげてやれなかった驚に対して一言、「しゅう、ごめんね。モモセで技術のある人に乗ってもらって、いつまでも‘しゅう’らしく暮らして行ってね。また見に行くから。腹痛には気をつけろよ。

フライト号

鎗木 照夫

フライトは、長屋さんがモモセで調教し、1993年11月27日に北大に入厩しました。名前だけは競技会などで知っていましたが、それ以外はこの馬に関して何も知りませんでした。僕がチーフについたのは一月の中頃からでした。乗り始めた当初は手綱を持つと頭をブンブンと振って、常歩、速歩ではまったく思うような運動ができずにセカセカしていました。ただ、障害に関してはとにかく向ければ飛ぶ馬でした。入厩してすぐに長屋さんに見ていただく機会があり、“馬の気持ちを十分に理解し、馬との信頼関係を築くことが全てである”とのアドバイスを受けました。そのほかには、飽きっぽい馬なので一つのことにこだわってはいけないということ、前をきつくせず馬を気持ちよく運動させてやるということ、ソフトに乗るということ、障害はたてがみをつかんでということなどです。また、馬に自分を早く覚えてもらうために曳き馬にたくさん連れていったり、手入れのときにおりこうにしていたらごほうびをやったり、耳や目などのよろこぶ所を丁寧にふいてあげたりと、とにかくかわいがりました。

手綱をゆずってゆずってということが続けていったことや、馬が慣れたこともあってか速歩、駆歩では手綱を持って運動できるようになり、やっと学生の馬になってきたなという感じがしました。また、入厩時は細かった馬体も坂の登り降りなどをしっかり行っていったために、背筋などだいぶがっしりしてきました。

シーズンはじめの半澤杯では他団体の馬が多数いたために非常に興奮してしまい、エントリーしたL級では手の内に入れた走行がまったくできませんでした。この経験から、練習ではハミ受けを重点的に行い馬を手の内に入れた運動を心がけました。また駆歩においては人馬の不釣り合いのため、いわゆる2.5ポイントでソフトに乗ることを心がけました。

ノーザンホースパークでの馴致では一頭だけだと非常に怖がりましたが、他の馬がいっしょであれば適度な緊張を保ち、人間に対する集中力などは北大の馬場以上にあるほどでした。ウッドチップ馬場でのフラットワークでは、クッションが作用して納得できる運動ができました。障害においても問題はなく、今後の総合競技への出場を考えてクロスカントリーコースの散歩もしました。

自馬体はノーザンで行なわれたため、馴致の成功や自分の思い込みもあって、人馬一体になったつもりで臨めました。自分の自信が馬に伝わり、フレンドリーで一落した以外特定L級、L級S&Hとも無過失でした。ただ3課目馬場は、馬が不慣れなこともあって人が馬を抑え付ける形になり得点は伸びませんでした。

僕が調教を誤ったのはこの後くらいからだと思います。自馬体である程度の成績を出せたために調子にのってしまい、独りよがりな調教をしだしてしまいました。馬が気持ちよく運動することのみを考えて、無理の無いフラットワークと同じ障害を繰り返し飛ぶことだけを行うようになりました。フラットワークは良くなってきた速歩を中心としたもので、苦手な常歩と左手前の駆歩をおろそかにしてしまいました。このことが、馬を甘やかし反抗するす

きを与えることにつながったのだと思います。障害においても、キャバレッティーから3:6のコンビネーションというワンパターンなことだけをやり続け、人馬とも向上していくことがありませんでした。そしてついに公認で反抗の引きがねを引いてしまいました。

公認はフレンドリーが満点で一日目のL級で一落がありました。リバプールなどフライトにとっては難しい経路だったが自分の自信で飛ばせたような感じでした。一日目、二日目とも出場する馬はフライトのみで、ノーザンにはフライト一頭で滞在することになりました。ある程度興奮するのは予想していましたが、想像以上に激しく興奮して夜も十分に休めてないようでした。そのような状態でウッドチップでの準備運動もしっかりこないまま障害飛越に入りました。フライトは集中力が全くなく、反抗してしまいました。僕も動転してしまい、馬の気持ちを考えてやることができずとにかくむりやりしばいて飛ばせました。その結果馬が焦ってしまい回転で人馬転をしてしまいました。幸い馬は無事だったので試合には出場しようと思い、待機馬場で長屋さんに見ていただきました。始めのうちは40cm位のバッテンでさえも拒止されました。人間が緊張してしまってその後も無理やり飛ばすような感じになってしまいました。長屋さんには走行中無理をしないで、もし良くないようであればその時点で棄権しなさいという助言をいただきました。経路走行は人と馬とがバラバラで途中で馬が行く気無くして2反され、お互いに不信感を抱いていた状態であったため人間の気力がとぎれてしまったため棄権しました。このときは馬に裏切られたと思いましたが今になって考えると、前にも述べたように人が馬を甘やかし過ぎて隙を与えてしまったこと、人が馬の上に立った信頼関係ができていなかったことが人馬転によって馬が不安になった時指示しきれなかったことにつながったのだと思います。長屋さんには人が自信を無くしているのが馬に伝わったのだろうと指摘を受けました。公認後に長屋さんに見てもらう機会があり、馬は何ともなく人が自信を取りもどせば大丈夫だと言われほっとしました。

北大の馬場では問題は無くなりましたが、長屋さんの助言を受け北日は二走、総合はあきらめて新人新馬レベルにエントリーすることにしました。北里では初めての場所にしては落ち着いた運動ができ、障害もいい感じで飛びました。ここでいい気になり、また失敗を犯してしまいました。公認で反抗されたことを忘れ、新人新馬レベルに落とさなくても大丈夫だと考えてMCにエントリーしてしまったのです。MCの経路にはそのころ反抗されることの多かった左回転が多く含まれており、よく考えればエントリーすべきではありませんでした。結果は三反抗失権。計画を立てるにあたり、追いつけないためレベルを下げることはあってもそのとき少し調子が良いからといってすぐにレベルを上げるべきではないということを痛感させられました。

その後、人馬の関係が崩れて試行錯誤しているまま道体に出場して失権してしまい、自分の力だけではどうにもならないと感じて八木さんに一時的に見てもらうことにしました。この様な状況で八木さんから学ぼうという気持ちを強く持って指導を受けたことは、その後の人馬の成長に大いに役に立ちました。僅か二年間足らずの馬歴しかない者が馬を調教するのだから、自分の力を過信せず始めからしっかりと見てもらうべきだったと思いました。

八木さんに見てもらうようになって馬の調子もみるみる良くなり、公認以前よりも調教の段階も進みました。具体的に気を付けたことは、・馬の上に立ち絶対に飛ばすのだという強

い意思を持つこと。・フワフワと座るのではなく、しっかり騎座で推進して馬に隙を与えないこと。・踏み切りも人間が指示する、ということなどです。これによってある程度の収縮もできるようになり、手の内にあるという感じがつかめるようになりました。このところ三反失権を繰り返していたため、障害選手権では始め八木さんに回っていただいた後に僕が出るようにしました。八木さん、僕ともにフレンドリー、特定L級、L級S & Hと満点で、L級選手権には僕だけが出場して満点でしたが、ジャンプオフで回転持に腰を浮かせてしまったためにごねられてしまいました。

9月になって河合が運動管理をすることに変わった後も、僕もしばらく一緒に乗っていました。シーズン最後の山下杯は満点で帰ってくることができ、馬も障害に対して自信ができてきたようでした。フライトにはこれからの北大を担う馬になってもらいたいと思っています。

ひとりひとりに、
競馬はうれしい。



日本中央競馬会
札幌競馬場

卒部にあたって

黒崎雅人

私も無事卒部することができました。
これまでお世話になった先輩方、同級生の皆さんには心から感謝いたします。
私はあと数年札幌に残りますので、微力ながら馬術部に貢献したいと思います。

西村雅夫

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ヤナツノアツサニハ チョット イヤトキドキ
イヤイヤショツチュウ弱音ヲ吐キ
欲ハソコソコアリ アマリ怒ラズ イツモヘラヘラ笑ッテイル
キタ十八ジョウノ ソウカガツカイマエノ フロナシノヘヤニ住ミ
早寝早起キハ部活ヲヤメタトタンデキナクナリ ゴメン早寝ハ今モダッタ
酒ハ弱ク 醜態ヲサラスホドハ飲マナイガ 八月六日ダケハ例外デアル
東デ畜大遠征アレバ 峠デ馬運車ガオーバーヒートシ
南デノーザンノ試合アレバ マタモ馬運車ガ白煙ヲアゲ
アマリ褒メラレモセズ 「馬ハイケドネエ…」 ガ気ニナッテショウガナイ
タマニ褒メラレルト スグ調子ニノリ
都合ノ悪イコトハ 一晩ネルトスグ忘レテシマイ
テストノ前ハオロオロアルキ オワッテシマエバトオイ目ヲシテイル
オチツキガナク 能天気ナ性格ト云ワレ
ホッカイドウニ来テ 馬術部ニ四年間イテ
サウ云ウ人ニ 私ハナッテシマッタヤウダ

深部 ちさ

卒部して自分の弱さを感じます。現役の頃は、自分は前向きな人間かと思っていたけれど、実はそうでもなかったようです。どうも馬術部時代のことを思い出すのが怖いのです。そのくせ、ついつい馬の話をしてしまうことが多かったりするから呆れたものです。
今シーズン、一番大事な時期が就職活動と重なり、各方面で迷惑をかけてしまいました。
いつも励まし、支えてくれた多くの方々には感謝しています。本当にどうもありがとうございます。

さいました。

松原 貴史

この馬術部は私にとって体力的にも精神的にも辛いと感じることが数多くあった。しかし、私は非常に貴重な経験をしたように思う。また今考えると、私は4年間かけて次の2つの問題に取り組み、その問題に正答する努力をしていただけのように思う。その問題とは、「馬という動物の気持を理解すること」「個性的な集団である馬術部をまとめること」である。また、その問題に正答できたかは解らないが、その課程で得たことは多大であると確信している。

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎ 726-1526

(社)日本ベストコントロール協会 (社)日本しろあり対策協会 会員

建築物ねずみこん虫等防除業 北海道知事登録

株式会社

北海道防疫サービス



ネズミ・害虫など有害生物の防除、殺菌消毒・除草の施工・管理請負

本社 札幌市北区新琴似6条11丁目9-20
札幌営業所 ☎ 001 ☎ (011) 761-2656

苫小牧営業所

苫小牧市日新町1丁目2-13
☎ 053 ☎ (0144) 73-3970

自己・他己紹介

《 4 年 目 》

黒崎雅人

百聞は一見に如かず

素顔の黒崎さんを見たい人は、私と一緒に・・・

㊤

㊤

㊤

㊤

タバコの好きな兄は、身をもって「ホタル族とはどんなものか」ということを我々に見せてくれていました。最近、禁煙などしていると聞きましたが、何か兄を変えることがあったのでしょうか。

そんなサラリーマンの兄ですが、めっぼう冒険というものがお好きなようで、見知らぬ街をフラフラして、怪しい建築物に「研究」と称して出入りしているようです。しかし、そのフットワークの良さが全日の総合には必要だということを覚えておきましょう。体力だよ、体力。

㊤

㊤

㊤

㊤

ここで唐突ではありますが

黒崎さんクイズ

以下の3択問題に答えなさい。

1. 黒崎さんの出身地はどこでしょう

①奈良県生駒市 ②東京都 ③アメリカ合衆国イリノイ州

2. 黒崎さんの入部した理由は

①ふと通りがかった馬場にいたしろがねの目に魅せられて入部した。

②コンパでつぶされて気がいたら部室にいた。

③同じクラスだったMさんに巻き込まれて入部した。

3. 黒崎さんは何故デビッドと呼ばれているのでしょうか

①ハーフだから

②堅実なボウリングぶりがプロゴルファーのデビッドイシイに似ているから

③マイケルでは似合わないから、ただなんとなく。

4. 黒崎さんの良くいく店は

①ジャンヌ ②時館 ③フィレンツェ

5. 黒崎さんが苦手なのは

①あんこ ②かずのこ ③おんなのこ

答えはあえて教えないので、わからない人は本人に聞いてもかまいませんが、どんな反応が返って来ようと当方は知ったこっちゃありません。

西村雅夫

早四年目 幹部昇進 役職会計 兼後援会 数字苦手 計算苦手

O B 相手 敬語苦手 悪戦苦闘 四苦八苦。

千鞍達成 技術向上 速歩駆歩 余裕余裕、

障害飛越 先飛随伴 馬大迷惑 平謝平謝。

萩野伝説 本名北凌 性格温厚 若干臆病 牛羊大嫌 全身硬直

鼓動増大 突如暴走 股下馬無 騎手落下。

教養三年 週一授業 学部移行 農業土木、理Ⅲ出身 物理苦手

水理力学 難儀授業 睡眠学習 馬耳念仏、成績発表 結果落胆。

現役引退 早寝遅起 昼寝夕寝 怠惰生活 反省必要。

(私と同一年の力上が発端と思われる昨今の四字熟語ブームには影響を受けていないことを一応ことわっておきます。)

㊦

㊦

㊦

㊦

人情に厚くて人が良く、おっとりしているようだけど変な所もある。そんな彼と二人でフィレンツェに行く関係になるなんて、人部した当時はゆめにもおもわなかったのに・・・
今時珍しいほどひねくれたところのない真っすぐな人だと思う。

深部 ちさ

馬術部の人、特に同じ代の人には考えもせず言いたい放題の事を言ったりして、きっと傷付けてしまったことがたくさんあると思います。この場を借りて謝ります。ごめんなさい。

㊤ ㊤ ㊤ ㊤

自由席達に振舞われます。悪く言えば、自分の感情をよくあらわにします。Y
姉とくっちゃべってる時など、おどろおどろしくてとても仲に入ることができません。こんな姉も最近「おさげ」をしなくなりました。何かあったのでしょうか。

㊤ ㊤ ㊤ ㊤

人一倍気が強く、コンパの席で「叩きやすいほっぺたしてる」と言って、私のほっぺたを眼鏡が吹っ飛ぶほどひっぱたく。

人一倍気が短く、部員総会の席で「N君話が長い」と言って、途中で話をやめさせる。

人一倍朝寝坊で、最上級生になっても週に2、3回は遅刻する。

と、様々な伝説を残し、札幌を去って行った彼女だが、北九州の地でもこのキャラクターを十分に発揮するであろう。

……………たまには遊びに来いよ！……………

松原 貴史

自分勝手な奴で皆様にはご迷惑をおかけしました。

こんな私でも無事卒業することができました。

大学院に進学予定で、2年間後輩の面倒を見る予定です。

㊤ ㊤ ㊤ ㊤

君が若くて、大きな夢を持つ熱血漢だということはわかったけど、いい加減「！」はやめなさい。貴ちゃんわかった？

《 3 年 目 》

鎗木 照夫

学校、部活、バイト、遊び。この4つをこなす人間は僕だけかな？この部報がでるのは全日の権利をとった頃かな？国家一種に受かった頃かな？それとも、現役から引退して海外旅行に行っている頃かな？僕はおりこうさんなのだ。日々精進をモットーにしている僕は、どこへ行ってもOK。僕はおりこうさんなのだ。みんな知っていると思うけど。

㊦

㊦

㊦

㊦

鎗木くんは後輩に対してもとってもFriendlyです。先輩だか分からないくらいわいわいたわまれてます。でも主将のかぶは少しこわい……と思う。

鎗木くんは実はとてもマメです。連日「シャローム・もり」なる小スーパーで夜遅くまで働いても、講義もバッチリいってる、みたいだし、やることは、しっかりやってる。いつでもどこでも眠れてしまうことは内緒にしておくとして、来夏が最後のチャンス、ガンガン盛りたてていくよ。がんばろうね。

㊦

㊦

㊦

㊦

兄はおちゃめです。馬場ではあの三角の目で部員を指導し、馬を駆り、皆の信頼を集めていますが、教食では、笑った拍子に口からダーッとコーヒーをこぼしてしまう。そんな兄が私は好きです。

河合 由枝

下級生の時は「こいつになら任せられる」と、上級生からいってもらえるような下級生でありたいと思っていた。上級生になったら「この人にならついていける」と下級生に思われるような上級生になりたいと思っていた。果たして、いま、もう上級生になってしまった。先輩が、後輩が、自分をどのように見ているのか。それはさておき、馬術部で3年間を過ごして、最後に部にも自分の中にも何かを残すためのラストチャンス。もうやるしかない。

㊦

㊦

㊦

㊦

姉は最高の女性です。部活動においては真剣そのもの。練習時でも、下級生に対する時も、ほんとに感心するほどです。学校においては勉強熱心で、‘りゅうねん’の‘り’の字もできません。また家庭においても手は抜かず、毎日プロ並の料理の腕をふるっているそうです。うらやましいですね。

米家 直子

もう
ナマイキ言ってもアホだし
はやく
副将芸 考えなきゃダメだし
それに
風紀委員長として、
この乱れたムンムンフーキ を さわやかキラキラ路線へ
変えなくては！と 思ってるし
そして
ラバーも元気だから
このないようにみえる数年間のことを、集められる '95に。

㊤ ㊤ ㊤ ㊤

米家さん、好きです。あなたにあこがれてます。

鶴見 直大

北大スポーツにインタビューされた時のセリフや、部報で特集組まれた時の原稿、はたまたNHKにインタビューされた時に言うことも全て考えた。後は技術向上のみ。いっちょドッカーンとでっかい花火を上げたらうかい！

㊤ ㊤ ㊤ ㊤

兄はナルシストです。その細く長い手足を眺めては、「俺のこの長い脚が」と自慢したり、「やっぱり俺は笑顔が一番や」と言っは、いけないことをした時もその100万ドルのほほえみで私達を黙らせてしまいます。でも、真冬にももひきをはいたり、お風呂に何日も入っていなかったり、という話を聞くと、「やはりアイドルも着実にオヤジになっていくのだな」と実感します。

保坂 晴美

㊤ ㊤ ㊤ ㊤

Funnyな彼女はみんなの人気者！でも最近ピントの外れたこともあまり言わなくなって、一般人化したのかな？この部活を陰で支えているガンバリ屋でもあり、またくいしん坊でもある。特技は永遠に食べ続けることであり、只々感心するばかりである。また、彼女の生活には未知な部分も多く、さぐりを入れているのだから、いま、行き詰まっている。調査途中の報告によると、彼女の家は異空間であること、学校周辺のコンビニで少年誌を読んでいること、3時間以上食べ物を口にしないと命にかかわること、自転車をこぐスピードは橋本聖子より速いことが分かっている。

溝井 敦史

気がつくと、あと残り半年になってしまった。百抹の不安を感じるが、精一杯頑張ろう！
p.s. 最近ようやく、スーパー定期と期日指定定期と変動金利定期の違いが分かった。資金運用について、何かいい話があったら教えて下さい。ちなみに、私の役職は「会計」です。

㊦

㊦

㊦

㊦

ある夜、私はとっても悲しい事があって、何故か部室にいきました。部室にはとまりの溝井さんがいたので、私は思わず溝井さんに泣きついてつらいことをいっぱい打ち明けてしまいました。溝井さんは困りながらも「よくわからんけど、あんまり気にしないほうがいいよ。」と言ってくれました。そのあと、溝井さんと一緒にテレビを見たことを良く覚えています。溝井さん、ありがとう。内緒だけど、あの日から私はひそかに溝井さんが好きです。㊦

㊦

㊦

㊦

㊦

兄は自分の感情にとっても充実なおひとです。決して自分を偽ろうとはしません。けれど兄はえらい人はしっかりと見分けるようでもあります。

谷地 緋

北大に来て馬術部に入って3年がたつ。
やっと、これからの自分の方向が見えてきた。
馬たちと過ごせて、楽しい。馬もいろいろなことを考えている。

㊦

㊦

㊦

㊦

谷地は怖い。涙を流して泣いていたかと思うと、その数分後にはケラケラと笑っている…

…。谷地は怖い。

2 年 目

北村 真

極寒の日に、ストーブをつけた部屋の中でごろごろぬくまっている。こんな日は幸せだ。

夏の晴れた日に、草を刈ったドンゴロス枕にし、木陰で昼寝する。こんな日は幸せだ。

辛いことの多いこの部活でも、幸せを見つけるのはわりと簡単なものです。

ああ、でも、こんなことをしている場合じゃなかったりして……。

㊦

㊦

㊦

㊦

1. 彼女は負けず嫌いである。

馬がいうことを聞いてくれなくて、目に涙をいっぱいためて歯をくいしばっている彼女を見ていると「がんばれ」と心から思う。

2. 彼女はダイエットしようとしている。（と、本人は言っている。）

「10kg痩せるんです。」と言いながら、朝ごはんをいっぱい食べてからおやつを我慢している姿をみると「それだけ食べたらいっしょじゃないの」と心から思う。

3. 彼女は時々大ボケ発言をする。

みんなが笑っているのに、彼女だけが何故自分が笑われているのか分からなくて、きょとんとしている姿をみると、「‘きたむりゃー’という名前がぴったり」と心から思った。

㊦

㊦

㊦

㊦

彼女のあこがれ、ドラえもんに向かって、ただ今、増量計画中。

中 田 一 条 己

㊦

㊦

㊦

㊦

兄を一言で表わすならば、「馬一筋」がぴったりです。

兄は馬ならば、乗馬、競馬を問わず、有力馬の名前、特徴、戦績の全てを頭にインプットしているんじゃないかと思うほど詳しいのです。

兄は話をしていて熱くなってくると、だんだん瞳孔が開いてきて、まるでそれをもって説

き伏せるかのように目をむいて話します。そのときの兄は少し怖いですが。でも兄はやっぱりマジメなんだろうなあと思います。

中村 晃史

いろんな思い（想い）があるけど、がんばります。ガンガンいきます。期待しててください。

いーかんじ。いー男だ。

△

△

△

△

こいつが主将になったら朝の集合の時や部員総会の時など、聞きとりにくくて後輩が困るだろうなと思うのは私だけでしょうか？そこで心のやさしい私は「中村ヒヤリング対策」としていくつか考案しました。というのは……

・彼の話すことをテープに録音し、皆でvolume大にして‘聞きとり’を行い、最終的には彼が一声話すだけで以心伝心何もかも皆が理解できるようにする。（これがBEST!）

・新入生の1人を主将お召し抱えという形にして常にスピーカーを持たせる。
とまあこんなことを書きながらも実はコロッと変わるんだろうなと思ってる私です、と最後にフォローしときましょう。

丸山 悦男

△

△

△

△

マルはワルである。マルは、貸アパートの立ち退きで30万をとりたてた男である。でも、部内では真の姿は現わさない。最近は顔色が悪く、目が長島監督になっており、ヤクをやっているという話もあるが、こう言っていることがマルの耳に入ったら、命の保証が無くなるので、ここだけの話とする。いつもマルには気をもんでいる。30万マル君。そのお金はどうするのかね？

村田 拓自

畠

畠

畠

畠

いろいろと、部の支えとなることをやってくれてる。私としては、もっといっぱいしゃべってほしい。かんばれ ムッチー、期待してるんだよ！

1 年 目

池田 智義

僕はおそらく天才でしょう。自分でもうすうす感じてました。
ときどきドジをするけど、それを除けばもう完璧でしょう。フッフッフッ
馬術部に入ってまだ一年にならないのにいろいろあった。OHCのS氏を怒らせたり、バイクに乗ったオヤジが転倒したのを助けたら、逆に警察に尋問されたり、日高でハダカ馬に乗ったり、始めて除雪機を使ったら、いきなりキャタピラがはずれたり、とまあ、常人ではめぐりあわないことばかりが僕のまわりで起きるのはやはり僕が凡人でないからでしょう。しかし天才とバカは紙一重というからもしかしたら天才でなくバカなのかもしれないぞ。まあこれからよろしくおねがいします。

畠

畠

畠

畠

一つ、彼はとてもエラソーである。
自分のことを‘オレ様’と呼ぶ。
一つ、彼はガンコ者である。
人に何と言われても自分が一番正しいと信じている。
一つ、彼は好戦的である。
なんでも、‘精神異状者’に興味があるそうで……
一つ、彼はおちょーしものである。
おだてて調子に乗れば木にでも登るでしょう……たぶん。
無茶苦茶言ってるようだけれど、一緒にいるととても落ち着く、人間味あふれる人です。

亀山 敏

オトトイ、 ミンナがぼくを煙たがってるのだろう。 人、だれも好きじゃナイ。うま、まあまあ。 何もやるき起きないな。

キノウ、世の中の全ての人は良い人だ。みんなかわいい。みんな大好き。いやなことなんてなにも考えつかない。ぼくは１００まで生きるんだ。

今日、教科書を買いに本屋にいった。いろいろ見ているうちになんだか勉強する気が出てきて、勉強したくなって、院にいてドクターとして学校のこっかな、なんて思って、けど頭ワリーのおもいだしてとり敢えず単位としてどっかイイところ就職したいな。で、家帰って、いっしょに買った小説読んで、ああ、年取ったらどこかの田舎で隠居して静かに茶でもたてよう。と思ってテレビをつけたら小さい宿屋のアジのある主人になりました。

㊤

㊤

㊤

㊤

亀はイイヤツです。ふだんはニコニコ smile をうかべてます。でもよっぱらった時は下品になります。風紀をみだすようなことを発言したり、女先輩に kiss しようとしたりと少しコマリものです。しかし、滯うとあかも本性が現われるものかねえ。

㊤

㊤

㊤

㊤

彼はキラキラと輝く瞳をもっている。

人部当初に比べ、くすんでいるとはいっても、やはりまだキラキラしている。

彼はとても若い心を持っているように思えるが、実は大変なおトナである。

瞳とは対象的な、冷静で合理的なハートを持っている。

しかし、とてもまっすぐないイヤツであるのは確かだ。

北村 浩子

もう一度夢を見たいから、いけるとこまでいってみよう。

と思う。

㊤

㊤

㊤

㊤

北村ひは、一年生の中で紅一点、かわいい女の子です。でも、いったん機嫌を損ねてしまうと……。でも、かわいいから、つい甘くなってしまう私です。

㊤

㊤

㊤

㊤

彼女は自分自身に良くも悪しくも一番素直に生きているんだと思います。

1997年馬術部部員名簿

氏名	現住所	TEL番号	郵便番号	帰省先住所	帰省先TEL番号
浅野知弘	N13W2 グラデ'フィラ 103号	011-726-7239	774	徳島県阿南市才見町浜戸33	0884-22-6488
角堂豪	N21W2 光裕荘 203号	011-747-9756	657	神戸市灘区高羽町5-3-10	078-811-1946
小谷友也	N20E3 みかほ'シリ 207号	011-741-0152	657	神戸市灘区將軍通2丁目	
田中悟史	N20W7 まつきハイツ 103号	011-746-1925	197	東京都福生市加美平4-1-20-204	0425-51-8248
寺坂龍児	N15W4 シェパードN15 B903	011-717-2723	425	静岡県焼津市石津695	054-624-6387
乗次由美	N18W4 ジョイト'札幌 411号	011-736-8358	033	三沢市桜町1-4-26官舎6-401	0176-53-8782
大崎智弘	N19W7 秋イト'バレス 102号	011-728-6963	732	広島県広島市東区中山東1-11-10	082-289-2296
尾崎哲浩	N20E2 リーメンション 103号	011-721-3445	938	富山県黒部市三日市3404	0765-52-0690
金丸鉄平	N18W1 広和学生会館 305号	011-742-9443	814-01	福岡市城南区松松寺3-14-20-2061	092-864-4252
川崎洋史	N23E1 コンチネンタル 206号	011-743-2433	590-04	大阪市泉南郡熊取町南山の手台5-5	0724-53-0633
栗原佳子	N21W7 アーバン'モ 410号	011-707-6399	112	東京都文京区大塚6-11-2	03-3946-6343
鈴木忠樹	N21W4 インハイツ214 102号	011-709-8908	371-01	群馬県前橋市高花台1-16-5	027-269-1072
寺田有美子	N22W4 リゾント'アレス 601号	011-709-8879	669-13	兵庫県三田市あかしあ台4-17-1	0795-62-7974
徳永やよい	N22W2 白雪荘 210号	011-758-1863 (210)	086-06	北海道野付郡別海町中春別西町19	01537-6-2640
藤倉大輔	N21W8 オンハウス北21条 205号	011-716-3211	227	横浜市青葉区もえぎ野22-6-304	045-971-3255
井口大地	N18W13 北大恵通寮	011-737-6582	168	東京都杉並区宮前5-1-13-1	03-3332-7032
柏瀬礼乃	N19W7 小堀マンション1号	なし	365	埼玉県鴻巣市赤見台1-11-10-405	0485-97-1956
畔柳宏司	N19W6 19条ハイツ 206号	011-757-7367	444-21	愛知県岡崎市百々町池ノ入29	0564-22-4777
菅本明子	N12W4 ベルエアーバレス 808号	011-717-6948	480-11	愛知県愛知郡長久手町岩作宮前68-10	0561-62-4672
須田健一郎	北区篠路3条3丁目3-7	011-772-3364	002	札幌市北区篠路3条3丁目3-7	011-772-3364
竹下竜雄	N28W4 院鳳荘 15号	050-288-7808	611	京都府宇治市折居台4-1-25	0774-24-3875
竹本和彰	麻生6-4-20 ハイツ麻生 2号	011-707-7787	981	仙台市青葉区西勝山8-1-204	022-277-3161
土肥真理子	N14W3 バレノ'タツ'イ1番館 506号	011-756-5915	721	広島県福山市東深津町5-14-15	0849-21-0859
中嶋貴久	N16W3 大江北マンション 202号	050-140-4488	154	東京都世田谷区野沢3-25-4-107	03-5481-7975
長田拓郎	N20W4 リゾント'グラー 406号	011-757-1710	938	富山県黒部市長尾211	0765-52-1162
浜田浩一	N17E1 コー'桂 7号	011-751-8083	782	高知県香美郡土佐山田町宮前町5-26	08875-2-0048
濱田哲	N13W4 パン'ヘル 506号	011-737-6880	605	京都市東山区本町15丁目784	075-541-1974
森田崇之	N11W3 ノースタウンハウス 815号	011-709-7558	446	愛知県安城市朝日町15-15	0566-75-1298
矢野尚子	N17W5 コー'すずらん 206号	011-716-2784	891-01	鹿児島市皇徳寺台5丁目11-8	099-265-6800
和田大	N18W6 ナミ18 306号	050-287-3311	854	長崎県諫早市真崎町950-2	0957-26-8637



NORTHERN HORSE PARK

ノーザンホースパーク

Riding in Hokkaido

社台ファームは競走馬の世界において、日本一を誇っています。馬ひとすじに、懸命の努力を積みかさねてきたおかげだと思えます。けれども、馬ひとすじというならば、馬術とも取り組まねばならぬと考えました。馬術を中心とした公園がノーザンホースパークです。いちど馬に乗ってみませんか。馬車に乗って夢を見てみませんか。

伝統を支えに

シャダイターキン、アンバーシャダイ、ダイナガリバー……。輝かしい名馬たちを生み出した「社台ファーム」。その伝統と実績を受け継いだ「ノーザンホースパーク」は、我が国唯一の「人と馬の自然公園」です。

パーフェクトな乗馬施設

●初心者から上級者まで本格的な乗馬練習ができるライディングエリア。●インストラクターの指導で気軽にレジャーライディングが楽しめるビギナーショートコース。●初心者と馬の調教のためのロンジングエリア。●夜間照明も完備され、雨や雪の心配がいないインドア乗馬場。●白樺やカラ松の林を抜ける2kmの外周乗馬コース。●ドレッシングエリア。●80頭収容可能な厩舎。

クラブハウスで「デリッシャス」

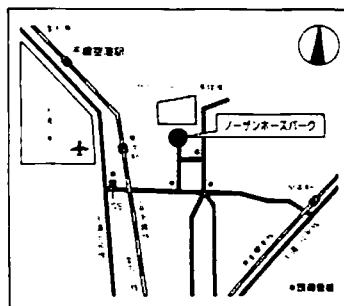
●8年連続リーディングサイアーに輝く社台ファームの名馬にちなんで名付けられたレストラン「ノーザンテースト」。新鮮な素材を目の前で調理するオープンキッチンが目覚め。●澄みわたる空気と緑がいっぱい。ドリンクメニューを豊富に揃えた屋外テラス。●ロビー、スーベニアショップ、サウナ、シャワールーム、プライベートルームも完備。

自分が感動するために

●全天候型テニスコートが5面、どなたでも気軽にプレイできるミニテニス用のコートが2面、計7面を常設。●公園内を自由に走ることができるレンタル自転車も用意。●お好みの景観をお好きなだけチョイスできる約300人収容可能なバーベキューハット。

ドラマの主人公のように

●公園内を一周する馬車コース。(2人乗り、10人乗り、2組まで20人乗り) ●夏には鮮やかな色彩のブッシュローズガーデン。●世界中のハーブが育てられているハーブガーデン。●馬たちが水を飲む牧草池。●思いっきり森林浴が楽しめる緑の楽園。



ノーザンホースパーク

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7

開園時間

夏期間(4/29～10/31) 9:00～21:00

冬期間(11/1～4/28) 10:00～18:00

※夏期間は16:00以降の入場料金が無料となります。

※冬期間は終日入場料金が無料となります。

※12/31～1/1は閉園いたしますので、ご了承ください。

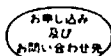
■千歳空港から無料バス(中央バス)で約10分。

ノーザンホースパーク・ライディングクラブ事務局

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7 ノーザンホースパーク内

TEL 0144 58-2116～8

FAX 0144 58-2377



編集後記

大変申し訳無く思っております。現役の部とOBとを結ぶ掛橋である部報の発行を数年間、私の怠惰により途だえさせてしまいました。全て亀山の責任です。

活動報告という部報の意義を考えますと今更のこととは存じますが、平成6年度の部の状況をお伝え致しました。但し、実用を考慮致しまして名簿は平成9年9月からの新体制のものとなっております。

私のような駄目な部員も卒部し、優秀な新役員を核として部員一同日々励んでおりますので、OBの方々には一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致したく存じます。

マネージャー（旧） 亀山 巖

部報 第40号

平成9年12月発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

☎ (011) 716-2111 内線5597

☎ (011) 737-1626 (直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

